

FUJITSU Workstation CELSIUS

製品ガイド

(共通編)

本書をお読みになる前に

1 ソフトウェア

2 BIOS

3 トラブル
シューティング

目次

本書をお読みになる前に	4
安全にお使いいただくために	4
本書の表記	4
Windowsの操作	6
BIOSやドライバーのアップデートについて	7
商標および著作権について	7
 第1章 ソフトウェア	
1.1 ソフトウェアの紹介	9
1.1.1 一覧表の見かた	9
1.1.2 セキュリティ関連のソフトウェア	10
1.1.3 サポート関連のソフトウェア	10
1.1.4 ユーティリティ	11
1.1.5 CD/DVD関連のソフトウェア	11
1.2 インストール	12
1.2.1 「ドライバーズディスク検索」からのインストール	12
1.2.2 「マカフィー リブセーフ」のインストール	14
1.2.3 「i-フィルター」のインストール	14
1.3 アンインストール	15
1.3.1 注意事項	15
1.3.2 アンインストール方法	15
 第2章 BIOS	
2.1 BIOSセットアップ	17
2.2 BIOSセットアップの操作のしかた	18
2.2.1 BIOSセットアップを起動する	18
2.2.2 BIOSセットアップ画面	18
2.2.3 BIOSセットアップメニュー	19
2.2.4 各キーの役割	19
2.2.5 BIOSセットアップを終了する	20
2.2.6 起動メニューを使用する	21
2.3 設定事例集	22
2.3.1 BIOSのパスワード機能を使う	22
2.3.2 起動デバイスを変更する	25
2.3.3 セキュリティチップの設定を変更する	26
2.3.4 カバー開放検出を有効にする	27
2.3.5 カバー開放エラーに対処する	27
2.3.6 Wakeup on LANを有効にする	28
2.3.7 Wakeup on RTCを有効にする	29

2.3.8	イベントログを確認する	29
2.3.9	イベントログを消去する	30
2.3.10	ご購入時の設定に戻す	30
2.4	ME BIOS Extension	31
2.4.1	初期パスワードを変更する	32
2.4.2	MEセットアップを起動する	34
2.4.3	MEセットアップを終了する	35
2.4.4	メニュー詳細	36
第3章 トラブルシューティング		
3.1	トラブル発生時の基本操作	38
3.1.1	状況を確認する	38
3.1.2	以前の状態に戻す	39
3.1.3	セーフモードで起動する（Windows 7の場合）	39
3.1.4	トラブルシューティングで調べる	39
3.1.5	Windowsのヘルプで調べる	40
3.1.6	インターネットで調べる	40
3.1.7	診断プログラムを使用する	40
3.1.8	サポートの窓口にご相談する	42
3.2	よくあるトラブルと解決方法	43
3.2.1	トラブル一覧	43
3.2.2	起動・終了時のトラブル	44
3.2.3	Windows・ソフトウェア関連のトラブル	47
3.2.4	ハードウェア関連のトラブル	49
3.2.5	エラーメッセージ一覧	57
3.3	それでも解決できないときは	62
3.3.1	お問い合わせ先	62
廃棄・リサイクル		63
付録1 ワークステーション本体の廃棄・譲渡時の注意		64
ワークステーションの廃棄・譲渡時の		
	ハードディスク上のデータ消去に関する注意	64
	ハードディスクデータ消去	65
付録2 Windowsの新規インストールについて		69
	注意事項	69
	新規インストールの準備	71
	新規インストール手順	73

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が『取扱説明書』に記載されています。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。

本書の表記

本書の内容は2017年12月現在のものです。お問い合わせ先やURLなどが変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】 + 【F3】キー、【Shift】 + 【↑】キーなど

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

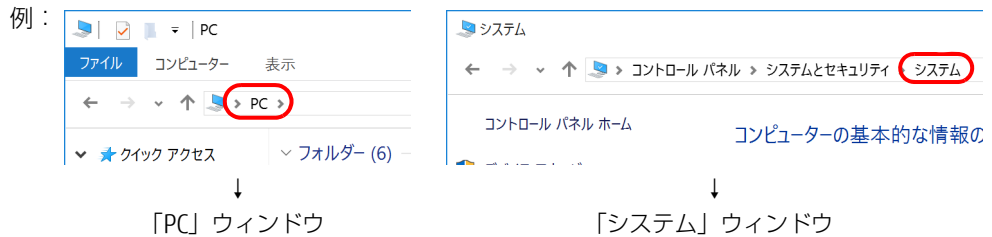
例：コントロールパネルの「システムとセキュリティ」をクリックし、「システム」をクリックし、「デバイス マネージャー」をクリックする操作



「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイス マネージャー」の順にクリックします。

■ ウィンドウ名の表記

本文中のウィンドウ名は、アドレスバーの最後に表示されている名称を表記しています。



■ 画面例およびイラスト

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略したり形状を簡略化したりしていることがあります。

■ 周辺機器の使用

本文中の操作手順において、DVDなどを使用することがあります。

操作に必要なドライブなどが搭載されていないモデルをお使いの場合は、必要に応じて別売の周辺機器を用意してください。

使用できる周辺機器については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>)をご覧ください。

また、使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ 本文に記載しているディスク

ディスク名称
リカバリデータディスク
リカバリ起動ディスク（Windows 10の場合） トラブル解決ナビディスク（Windows 7の場合）
ドライバーズディスク

ご購入時の構成によっては、これらのディスクは添付されていません。

本ワークステーションに格納されているイメージからディスクを作成する必要があります。
作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。

■ 本文に記載している仕様とお使いの機種との相違

ご購入時の構成によっては、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。
あらかじめご了承ください。

なお、本文内において、機種やOS別の書き分けがある箇所については、お使いの機種の情報をお読みください。

■ 「ハードディスク」 の記載について

フラッシュメモリディスク搭載機種の場合、このワークステーションに内蔵されたハードディスクを示す箇所は、フラッシュメモリディスクに読み替えてください。

■ 製品名の表記

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記		
Windows 10 Pro 64ビット版	Windows 10（64ビット版）	Windows 10	Windows
Windows 7 Professional 64ビット版	Windows 7（64ビット版）	Windows 7	
Adobe® Acrobat Reader® DC	Adobe Acrobat Reader DC		
FUJITSU Software Portshutter Premium	Portshutter Premium		
FUJITSU Software パソコン乗換ガイド	パソコン乗換ガイド		
i-フィルター® for マルチデバイス	i-フィルター		
Roxio Creator LJ	Roxio Creator		
マカフィー® リブセーフ™	マカフィー リブセーフ		

Windowsの操作

■ 「コントロールパネル」 ウィンドウ

次の手順で「コントロールパネル」ウィンドウを表示させてください。

☐ Windows 10の場合

- 1 「スタート」ボタン→「Windows システム ツール」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

☐ Windows 7の場合

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。

■ Windowsのヘルプ

本書で説明されていないWindowsの機能については、次の操作で表示されるWindowsのヒントおよびヘルプをご覧ください。

Windowsのヒントおよびヘルプのご利用は、ネットワークに接続する必要があります。

☐ Windows 10の場合

- 1 「スタート」ボタン→「ヒント」をクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「ヒントを参照する」をクリックします。

□ Windows 7の場合

1 「スタート」ボタン→「ヘルプとサポート」の順にクリックします。

■ ユーザーアカウント制御

本書で説明しているWindowsの操作の途中で、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示される場合があります。これは、重要な操作や管理者の権限が必要な操作の前にWindowsが表示しているものです。表示されるメッセージに従って操作してください。

BIOSやドライバーのアップデートについて

本ワークステーションには、さまざまなソフトウェアや周辺機器の接続／制御に必要なBIOS、ドライバーなどが搭載されています。
これらのソフトウェア、BIOS、ドライバーに対して、アップデートプログラムが提供されることがあります。

アップデートプログラムには、次のような内容が含まれています。

- 機能の向上、追加
- 操作性の向上
- 品質改善

本ワークステーションをより快適にお使いいただくために、常に最新版のBIOSやドライバーを適用してください。

アップデート方法については、弊社アップデートサイト（http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_down.html）をご覧ください。

商標および著作権について

Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel vProは、アメリカ合衆国および / またはその他の国における Intel Corporation の商標です。

Adobe、Acrobat Readerは、合衆国および / またはその他の国におけるアドビ システムズ社の登録商標または商標です。

Corel、Corel バルーンロゴ、Roxio、Roxio のロゴ、Roxio Creatorは、カナダ、アメリカ合衆国および / またはその他の国の Corel Corporation および / またはその関連会社の商標または登録商標です。

デジタルアーツ / DIGITAL ARTS、ZBRAIN、アイフィルター / i-フィルターはデジタルアーツ株式会社の登録商標です。

McAfee、マカフィー、McAfee のロゴ、LiveSafe、リブセーフは、米国法人 Intel Corporation または McAfee, Inc.、もしくは米国またはその他の国の関係会社における商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright FUJITSU LIMITED 2017

1

第1章

ソフトウェア

本ワークステーションにプレインストール（添付）されているソフトウェアの概要や、インストール、アンインストール方法を説明しています。

1.1	ソフトウェアの紹介	9
1.2	インストール	12
1.3	アンインストール	15

1.1 ソフトウェアの紹介

ここでは、本ワークステーションにプレインストールまたは添付されているソフトウェアの概要と、ご購入時の提供形態を説明しています。

ご購入時にインストールされているソフトウェアは、削除してしまったり、データやファイルが破損したりした場合に再インストールできるように、「ドライバーズディスク」などに格納されています。

また、ご購入時にはインストールされておらず、お使いになる前にCドライブなどからインストールするソフトウェアもあります。

各ソフトウェアの格納場所は、次ページ以降の一覧表で確認してください。

その他の情報については次をご覧ください。

- ソフトウェアの使い方
ヘルプまたは「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。
ヘルプは、【F1】キーを押したり「ヘルプ」をクリックしたりすることで表示されます。
- インストール方法
「1.2 インストール」（→P.12）をご覧ください。
- カスタムメイドのソフトウェアおよび一部のソフトウェア
インターネット上のマニュアル（<http://www.fmworld.net/biz/celsius/manual/>）の機能別のマニュアルをご覧ください。

1.1.1 一覧表の見かた

ソフトウェア一覧表の欄にある項目や記号について説明します。

- OSについて
お使いのワークステーションに該当するOSの欄をご覧ください。
 - ・ Win10 : Windows 10
 - ・ Win7 : Windows 7
- ご購入時のソフトウェアの提供形態について
 - : ご購入時にインストール済み
 - ◇ : Cドライブに格納（ご購入時はインストールされていません）
 - ▲ : 「ドライバーズディスク」に格納（ご購入時はインストールされていません）
 - : Windows 10の場合、起動メニューより選択（→P.21）
Windows 7の場合「トラブル解決ナビディスク」に格納
 - ー : 搭載されていないか、対象となる機種がありません

「ドライバーズディスク」は、本ワークステーションのハードディスクに格納されています。ディスクがお手元にはない場合はハードディスクからディスクを作成してください。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。

1.1.2 セキュリティ関連のソフトウェア

表内の記号については「1.1.1 一覧表の見かた」（→P.9）をご覧ください。

名称	概要／提供形態	Win10	Win7
i-フィルター	インターネット上の有害なコンテンツをブロックするソフトウェアです。有害サイトへアクセスしようとする、表示できない主旨のメッセージ画面が自動的に表示されます。 本ソフトウェアは30日間のお試し版です。試用期間中、サポートします。 ・「i-フィルター」の利用期間は、初回起動時から30日間です。利用期間が経過すると、フィルター機能は利用できなくなります。継続して利用する場合は、オンラインにてユーザー登録、シリアルIDの購入が必要です。	◇	◇
Portshutter Premium	USBポート（内蔵USBデバイスを含む）や光学ドライブなどの接続ポートの有効・無効を設定します。不要な機器の使用を制限することで、情報漏えいを防止できます。	▲	▲
マカフィー リブセーフ	コンピューターウイルスを検出・駆除します。無償サポート、無償アップデートの期間は、使用開始から60日間です。 インストールの方法については「1.2.2 「マカフィー リブセーフ」のインストール」（→P.14）を、その他のお問い合わせは「3.3.1 お問い合わせ先」（→P.62）をご覧ください。	◇	◇
ハードディスクデータ消去	ハードディスク内のデータを消去します。 詳しくは、「ハードディスクデータ消去」（→P.65）をご覧ください。	■	■

1.1.3 サポート関連のソフトウェア

表内の記号については「1.1.1 一覧表の見かた」（→P.9）をご覧ください。

名称	概要／提供形態	Win10	Win7
UpdateAdvisor（本体装置）	お使いのワークステーションのドライバー、添付ソフトウェアのアップデート版が、弊社アップデートサイトに公開されているかを調査し、適用することができます。 「スタート」メニューから起動します。 また、「UpdateAdvisor（本体装置）情報収集」を利用してお使いのワークステーションの動作環境情報を収集できます。 ・「UpdateAdvisor（本体装置）情報収集」は、弊社サポートより依頼があった場合にのみお使いください。	—	●
アップデートナビ	インターネットを経由して、ドライバーやアプリの更新プログラムの有無を定期的にチェックして通知します。 アップデートナビを有効にするには、一度アプリを起動し、自動更新通知・常駐設定で「自動更新通知をする」を選択する必要があります。 その後、ドライバーやアプリが更新されると、通知が表示されます。	●	—
パソコン乗換ガイド	今までお使いになっていたワークステーションから、現在お使いのワークステーションへ必要なデータを移行できます。 ・「パソコン乗換ガイド」では移行できないデータもあります。	▲	▲
富士通ハードウェア診断ツール	ハードウェアに障害が発生していないか診断できます。 詳しくは、「3.1.7 診断プログラムを使用する」（→P.40）をご覧ください。	■	■

1.1.4 ユーティリティ

表内の記号については「1.1.1 一覧表の見かた」（→P.9）をご覧ください。

名称	概要／提供形態	Win10	Win7
Adobe Acrobat Reader DC	PDF ファイルを表示、閲覧、印刷できます。 フリーソフトのため、サポートはしていません。お問い合わせは、「3.3.1 お問い合わせ先」（→P.62）をご覧ください。	—	●
NTC Mirror Monitor Utility	対 象 SATA-RAID1 搭載機種 Windows 上でディスクアレイの状態監視やメンテナンスなどを行うための RAID 管理ユーティリティです。 詳しくは、『SATA-RAID をお使いの方へ』をご覧ください。	●	●
Plugfree NETWORK	有線 LAN、およびダイヤルアップネットワークに接続するための設定を統合的に管理するソフトウェアです。 「Plugfree NETWORK」が接続したネットワークを判定し、会社、自宅など、ワークステーションを使う場所が変わっても、自動で最適な設定に切り替えます。 「ネットワーク診断」でネットワークの状態を確認し、トラブル解決のサポートをします。 詳しくは、「Plugfree NETWORK」のヘルプをご覧ください。	●	●
ドライバズディスク検索	ドライバやアプリをインストールするときに使用するソフトウェアです。	●	●
ゆったり設定 2	ワークステーションをより使いやすくするために、マウスポインターの動く速度、文字やアイコンの大きさなどの設定を簡単に変更できます。	—	▲

1.1.5 CD/DVD 関連のソフトウェア

表内の記号については「1.1.1 一覧表の見かた」（→P.9）をご覧ください。

名称	概要／提供形態	Win10	Win7
Roxio Creator	ワークステーションのデータを CD や DVD に保存できます。 使用方法についてはソフトウェアのヘルプをご覧ください。	●	●

1.2 インストール

インストール方法はお使いになるソフトウェアにより異なります。
データの格納されたフォルダー内にある「Readme.txt」などの説明ファイルや、
機能別マニュアル、ソフトウェアに添付のマニュアルなどを必ずご確認ください。手
順に従ってインストールしてください。

重要

- ▶ 誤ったドライバーをインストールした場合、本ワークステーションが正しく動作しなくなり、リカバリが必要となることがあります。必ずOSや機種名を確認し、正しいドライバーを使用してください。
- ▶ すでにインストールされているドライバーについては、特に問題がない限りインストールしないでください。
- ▶ 管理者アカウントでWindowsにサインイン（ログオン）してからインストールしてください。

1.2.1 「ドライバーズディスク検索」からのインストール

「ドライバーズディスク」^(注) またはハードディスクに格納されているソフトウェアまたはドライバは、「ドライバーズディスク検索」を使ってインストールできます。

注：・「i-フィルター」をインストールする場合は、「1.2.3 「i-フィルター」のインストール」(→P.14) をご覧ください。

重要

- ▶ 次のソフトウェアは「ドライバーズディスク検索」からインストールできません。各ソフトウェアのインストールをご覧ください。
 - ・マカフィー リブセーフ (→P.14)
- ▶ 「ドライバーズディスク」は、本ワークステーションのハードディスクに格納されています。ディスクがお手元がない場合はハードディスクからディスクを作成してください。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。
- ▶ ドライバやソフトウェアのアップデート版は、弊社アップデートサイトに公開されています。システムの安定稼働のため、常に最新版のドライバやユーティリティを適用することをお勧めします。なお、本ワークステーションに搭載されているすべてのドライバやソフトウェアが公開されているわけではありません。

1 次の操作を行います。

●ディスクからインストールする場合

1. ディスクをセットします。

「ドライバーズディスク検索」が起動します。

POINT

- ▶ Windows 10でメッセージ（画面右下）が表示された場合は、そのメッセージをクリックし、続けて「DRVCDSRC.exeの実行」をクリックしてください。
- ▶ Windows 7で「自動再生」ウィンドウが表示された場合は、「DRVCDSRC.exeの実行」をクリックしてください。
- ▶ 「ドライバーズディスク検索」が起動しない場合は、次のように操作してください。
 1. 次の操作を行います。
 - Windows 10の場合
 1. 「スタート」ボタンを右クリックし、「エクスプローラー」をクリックします。
 2. ウィンドウ左の「PC」をクリックします。
 - Windows 7の場合
 1. 「スタート」ボタン→「コンピューター」の順にクリックします。
 2. ディスクをセットしたドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「自動再生を開く」をクリックします。
 3. 「DRVCDSRC.exeの実行」をクリックします。

●ハードディスクのデータからインストールする場合

- Windows 10の場合

1. 「スタート」ボタン→「Fujitsu - ドライバーズディスク検索」→「ドライバーズディスク検索（ハードディスク）」の順にクリックします。
2. メッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。

- Windows 7の場合

1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Fujitsu - ドライバーズディスク検索」→「ドライバーズディスク検索（ハードディスク）」の順にクリックします。
- 「ドライバーズディスク検索」が起動します。

2 「ソフトウェアの検索条件」で機種名が選択できる場合は、お使いの機種名を選択します。

3 「ソフトウェアの検索条件」でお使いのOSを選択します。

4 「種別」に「すべて」を選択します。

5 インストールするソフトウェアを選択します。

「内容」に、インストールするソフトウェアのフォルダーが表示されます。

6 「インストール方法の確認」をクリックします。

Readmeなどのテキストファイルを選択するウィンドウが表示されます。

- 7 テキストファイルを選択し、「開く」をクリックします。**
テキストファイルの手順に従って、ドライバーをインストールしてください。

- Portshutter Premiumをインストールする場合
デバイス制御、ネットワーク制御でインストール方法が異なります。
それぞれのソフトウェア説明書をご覧になりインストールしてください。
- ・デバイス制御
「PortshutterPremiumDevice」フォルダの「操作マニュアル.pdf」
 - ・ネットワーク制御
「PortshutterPremiumNetwork」フォルダの「操作マニュアル.pdf」
- ドライバーのインストール完了後、本ワークステーションが再起動します。

1.2.2 「マカフィー リブセーフ」のインストール

POINT

- ▶ 「マカフィー リブセーフ」をインストールしていると、お使いのソフトウェアによっては正常にインストールされなかったり、不具合が発生したりすることがあります。

- 1 次のファイルをご覧になり、インストールします。**
C:\¥Fujitsu¥Bundle¥MLS¥Readme.txt
- 2 インストールが完了したら本ワークステーションを再起動します。**

重要

- ▶ ウィルス定義ファイルは、常に最新の状態でお使いください。詳しくは「マカフィー リブセーフ」のヘルプをご覧ください。
- ▶ ウィルス定義の更新は、システム管理者の指示に従って実行してください。
- ▶ 定義を更新するには、インターネットに接続できる環境が必要です。

1.2.3 「i-フィルター」のインストール

Cドライブに格納されています。次のファイルをご覧になり、インストールしてください。
C:\¥Fujitsu¥Bundle¥I-Filter¥Readme.txt

1.3 アンインストール

1.3.1 注意事項

ソフトウェアをアンインストールする場合は、次の点に注意してください。

- ソフトウェアをすべて終了してからアンインストールを始めること
- DLLファイルは削除しないこと
アンインストール時に次のようなメッセージが表示されることがあります。

「このDLLは複数のソフトウェアで使用されている可能性があります。削除を行いますか」
このDLLファイルを削除すると、他のソフトウェアが正常に動作しなくなることがあります。
ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルで、
特に指示がない場合はDLLファイルは削除しないことをお勧めします。

1.3.2 アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- アンインストール機能を使用する
ソフトウェアにアンインストール機能が用意されている場合があります。
- 「プログラムのアンインストールまたは変更」機能を使用する
次の手順で削除することができます。
 1. 次の操作を行います。
 - Windows 10の場合
 1. 「スタート」ボタン→（設定）→「アプリ」の順にクリックします。
 2. 画面左側のメニューで「アプリと機能」をクリックします。
 3. 画面右側の関連設定の「プログラムと機能」をクリックします。
 - Windows 7の場合
 1. 「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.6）を表示します。
 2. 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリックします。
「プログラムと機能」が表示されます。
 2. 削除したいソフトウェアを右クリックし、表示されたメニューから「アンインストール」を選択します。

アンインストール方法はソフトウェアによって異なります。詳しくは、各ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。

2

第2章

BIOS

BIOS セットアップについて説明しています。

2.1	BIOS セットアップ	17
2.2	BIOS セットアップの操作のしかた	18
2.3	設定事例集	22
2.4	ME BIOS Extension	31

2.1 BIOSセットアップ

BIOSセットアップは、メモリやハードディスクなどのハードウェアの環境を設定するためのプログラムです。

本ワークステーションご購入時には、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。次のような場合にBIOSセットアップの設定を変更します。

- ・ 特定の人だけが本ワークステーションを利用できるように、本ワークステーションにパスワードを設定するとき
- ・ 起動デバイスを変更するとき
- ・ セキュリティチップの設定を変更するとき
- ・ Wakeup on LANの設定を変更するとき
- ・ Wakeup on RTCの設定を変更するとき
- ・ 起動時の自己診断（POST）にBIOSセットアップをうながすメッセージが表示されたとき

重要

- ▶ BIOSセットアップの設定は、必ず電源を完全に切ってから行ってください。電源の切り方は、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」―「電源を切る」をご覧ください。
- ▶ BIOSセットアップは正確に設定してください。
設定を間違えると、本ワークステーションが起動できなくなったり、正常に動作しなくなったりすることがあります。
このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本ワークステーションを再起動してください。
- ▶ 起動時の自己診断中は、電源を切らないでください。

2.2 BIOSセットアップの操作のしかた

ここでは、BIOSセットアップの起動と終了、および基本的な操作方法について説明しています。

2.2.1 BIOSセットアップを起動する

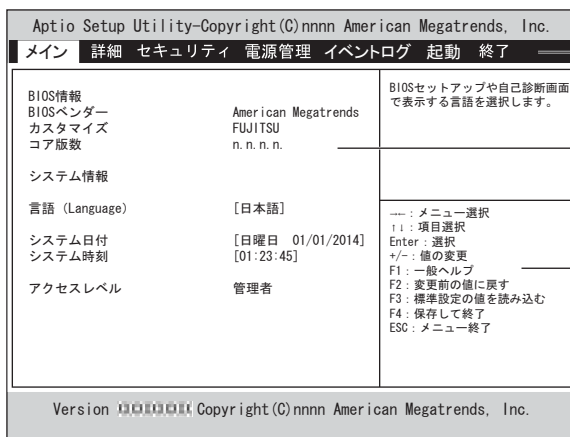
- 1 【F2】キーまたは【Esc】キーを押したまま、本ワークステーションの電源を入れます。
- 2 BIOSセットアップ画面が表示されたら、【F2】キーまたは【Esc】キーを離します。パスワード入力画面が表示された場合はパスワードを入力（→P.24）し、すぐに【F2】キーまたは【Esc】キーを押してください。

POINT

- ▶ Windowsが起動してしまった場合は、本ワークステーションの電源を完全に切ってからもう一度操作してください。電源の切り方は、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」―「電源を切る」をご覧ください。

2.2.2 BIOSセットアップ画面

BIOSセットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。
各項目についての説明は「項目ヘルプ」を、操作方法は「2.2.4 各キーの役割」（→P.19）をご覧ください。



- 1 メニューバー
メニュー名が表示されます。
- 2 設定フィールド
選択しているメニューの設定項目と、現在の設定値が表示されます。
- 3 キー一覧
設定時に使うキーの一覧です。

（機種により表示が異なる場合があります）

2.2.3 BIOSセットアップメニュー

BIOSの各種設定を行います。
本ワークステーションのBIOSセットアップメニューについては、『BIOSセットアップメニュー一覧』をご覧ください。

2.2.4 各キーの役割

BIOSセットアップで使う、主なキーの役割は次のとおりです。

キー	役割
【F1】キー	BIOSセットアップで使用するキーについて説明しているヘルプ画面が表示されます。 閉じる場合は、【Esc】キーまたは【Enter】キーを押します。
【←】【→】キー	メニューを切り替えます。
【↑】【↓】キー	設定する項目にカーソルを移動します。 【Page Up】【Page Down】キーを押すと、ページの先頭または最後にカーソルを移動できます。
【-】【+】キー	各項目の設定値を変更します。
【Shift】 + 【↑】【↓】キー	項目の説明が表示されている部分をスクロールします。
【Esc】キー	・「変更を保存せずに終了しますか？」と表示されます。 ・サブメニューが表示されている場合は、1つ前の画面が表示されます。
【Enter】キー	・▶が付いている項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。 ・設定値にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、設定値の一覧が表示され、設定値を選択できます。 ・時刻や日付の設定時に時、分、秒または年、月、日の間でカーソルを移動します。
【F2】キー	変更前の値を読み込みます。
【F3】キー	標準設定値を読み込みます。
【F4】キー	変更した設定値を保存してBIOSセットアップを終了します。

2.2.5 BIOSセットアップを終了する

■ 変更を保存して終了する場合

1 「終了」メニューを選択します。

サブメニューが表示されている場合は、【Esc】キーを押してメニュートップに戻り、「終了」メニューを選択してください。

 POINT

- ▶ 【Esc】キーを押し続けると、「変更を保存せずに終了しますか？」と表示されます。表示されたときは、もう一度【Esc】キーをして画面を消してから、「終了」メニューを選択してください。

2 次のいずれかの項目を選択し、【Enter】キーを押します。

- ・「変更を保存して終了する（再起動）」
- ・「変更を保存して終了する（電源OFF）」

確認メッセージが表示されます。

3 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

BIOSセットアップが終了します。「変更を保存して終了する（再起動）」を選択した場合はWindowsが起動し、「変更を保存して終了する（電源OFF）」を選択した場合はワークステーションの電源が切れます。

■ 変更を保存せずに終了する場合

1 「終了」メニューを選択します。

サブメニューが表示されている場合は、【Esc】キーを押してメニュートップに戻り、「終了」メニューを選択してください。

2 「変更を保存せずに終了する（再起動）」を選択し、【Enter】キーを押します。

確認メッセージが表示されます。

3 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

BIOSセットアップが終了し、Windows が起動します。

2.2.6 起動メニューを使用する

起動するデバイスを選択して本ワークステーションを起動します。「リカバリ起動ディスク（Windows 10）」や「トラブル解決ナビディスク（Windows 7）」から本ワークステーションを起動する場合などに使用します。

重要

- ▶ BIOSセットアップの「起動」メニューの「起動メニュー」が「使用しない」の場合は、起動メニューを使用できません。その場合は、「使用する」に設定し直してください。

1 【F12】キーを押したまま、本ワークステーションの電源を入れます。

2 起動メニューが表示されたら、【F12】キーを離します。

パスワード入力画面が表示された場合はパスワードを入力（→P.24）し、すぐに【F12】キーを押してください。

POINT

- ▶ Windowsが起動してしまった場合は、本ワークステーションの電源を完全に切ってからもう一度操作してください。電源の切り方は、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」―「電源を切る」をご覧ください。

3 カーソルキーで起動するデバイスを選択し、【Enter】キーを押します。

選択したデバイスから本ワークステーションが起動します。

POINT

- ▶ 光学ドライブから起動する場合、光学ドライブにディスクをセットしてから操作してください。
UEFI起動メディアから起動する場合は、「UEFI：（光学ドライブ名）」を選択してください。「UEFI：（光学ドライブ名）」が表示されていないときは、次の操作を行い、本ワークステーションを再起動してください。
 1. ディスクをセットしたまま【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押し、続けて【F12】キーを押したままにします。
 2. 起動メニューが表示されたら【F12】キーを離します。
- ▶ 光学ドライブから起動する場合、光学ドライブのデータの読み出しが停止していることを確認してから【Enter】キーを押してください。
光学ドライブのデータの読み出し中に【Enter】キーを押すと、光学ドライブから正常に起動できない場合があります。
- ▶ 起動メニューを終了して通常の方法で起動する場合は、【Esc】キーを押してください。

2.3 設定事例集

ここでは、よく使われる設定について、その設定方法を記載しています。お使いの状況にあわせてご覧ください。

- ・ BIOSのパスワード機能を使う（→P.22）
- ・ 起動デバイスを変更する（→P.25）
- ・ セキュリティチップの設定を変更する（→P.26）
- ・ カバー開放検出を有効にする（→P.27）
- ・ カバー開放エラーに対処する（→P.27）
- ・ Wakeup on LANを有効にする（→P.28）
- ・ Wakeup on RTCを有効にする（→P.29）
- ・ イベントログを確認する（→P.29）
- ・ イベントログを消去する（→P.30）
- ・ ご購入時の設定に戻す（→P.30）

2.3.1 BIOSのパスワード機能を使う

■ パスワードの種類

本ワークステーションで設定できるパスワードは次のとおりです。

☐ 管理者用パスワード

システム管理者用のパスワードです。パスワード機能を使う場合は、必ず設定してください。

☐ ユーザー用パスワード

一般利用者用のパスワードです。管理者用パスワードが設定されている場合のみ設定できます。ユーザー用パスワードでBIOSセットアップを起動した場合は、設定変更のできる項目が制限されます。制限された設定項目はグレー表示になり、変更できません。

POINT

- ▶ 管理者用パスワードが削除された場合、ユーザー用パスワードも削除されます。

☐ ハードディスクパスワード

本ワークステーションのハードディスクを、他のユーザーが使用したり、他のコンピューターで使用したりできないようにするためのパスワードです。管理者用パスワードを設定してからハードディスクパスワードを設定することをお勧めします。

■ パスワード入力が必要となる場合

管理者用パスワードを設定することにより、次の場合に入力が必要となります。

- ・ BIOSセットアップを起動するとき

ユーザー用パスワードを設定することにより、次の場合に入力が必要となります。

- ・ 本ワークステーションを起動するとき
- ・ 休止状態からレジュームするとき

必要に応じて、管理者用またはユーザー用パスワードを入力してください。

■ パスワードを設定／変更／削除する

重要

- ▶ ハードディスクパスワードを設定する場合は、電源オフ状態から作業を開始してください。本ワークステーションを再起動してBIOSセットアップを起動した場合、ハードディスクパスワードを設定することはできません。
- ▶ 「管理者用パスワード」を変更するには、BIOSセットアップを「管理者用パスワード」で起動する必要があります。

1 ハードディスクパスワードを設定する場合は、次の操作を行います。

1. 本ワークステーションの電源が入っている場合は、電源を切ります。
電源の切り方は、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」－「電源を切る」をご覧ください。
2. BIOSセットアップを起動します（→P.18）。

2 「セキュリティ」メニューで次の項目を選択し、【Enter】キーを押します。

- 管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する場合
 - ・ 「管理者用パスワード設定」
 - ・ 「ユーザー用パスワード設定」
- ハードディスクパスワードを設定する場合
 - ・ 「ハードディスクセキュリティ設定」 → 「Pn：（ハードディスクドライブ名）」の「ユーザーパスワード設定」

3 すでにパスワードが設定されている場合は、現在のパスワードを入力します。

「新しいパスワードを入力してください」にカーソルが移ります。

4 新しいパスワードを入力します。

管理者用パスワード／ユーザー用パスワードは3～32桁、ハードディスクパスワードは1～32桁まで入力できます。

パスワードを削除する場合は、何も入力せずに【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを確認してください」にカーソルが移ります。

重要

- ▶ パスワードには次の文字を使用できます。
 - ・ 半角英数字（a-z、A-Z、0-9）
 - ・ 半角スペース
 - ・ 半角記号（「!」、「¥」、「\」（バックスラッシュ））は除く）複数の種類のキーボードを接続する場合は、アルファベットと数字を使用することをお勧めします。
- また、接続するキーボードの種類にあわせ、事前にBIOSセットアップの「メイン」メニューの「キーボードレイアウト」を設定する必要があります。設定後は、「終了」メニューの「変更を保存して終了する（再起動）」または「変更を保存して終了する（電源OFF）」を実行してください。
- ▶ 入力した文字は表示されず、代わりに「*」が表示されます。
- ▶ 数字だけでなく英字を入れたり、定期的に変更したりするなど、第三者に推測されないように工夫してください。
- ▶ 本ワークステーションの修理が必要な場合は、必ずパスワードを解除してください。パスワードがかかった状態では、保証期間にかかわらず、修理は有償となります。

5 手順4で入力したパスワードをもう一度入力します。

「変更が保存されました。」と表示され、パスワードが変更されます。

POINT

- ▶ 再入力したパスワードが間違っていた場合は、警告メッセージが表示されます。
【Enter】キーを押してウィンドウを消去し、手順4からやり直してください。

6 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。

「2.2.5 BIOSセットアップを終了する」（→P.20）

■ パスワードを使用する

設定したパスワードは、BIOSセットアップの設定により、次の場合に入力が必要になります。

POINT

- ▶ 誤ったパスワードを3回入力すると、エラーメッセージが表示されます。（警告音が鳴り、キーボードやマウスが一切反応しなくなります。）
この場合は、電源ボタンを4秒以上押して本ワークステーションの電源を切ってください。その後、10秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。
- 管理者用パスワード／ユーザー用パスワード
 - ・ BIOSセットアップを起動するとき
 - ・ 本ワークステーションを起動するとき
 - ・ 休止状態からレジュームするとき

次の入力画面が表示されたら、管理者用パスワードまたはユーザー用パスワードを入力してください。

パスワードを入力してください

- ハードディスクパスワード
 - ・ 本ワークステーションを起動するとき
- 次の入力画面が表示されたら、対応するドライブのハードディスクパスワードを入力してください。

P0: (ハードディスク名)
ハードディスクのパスワードを入力してください:
—

■ パスワードを忘れてしまったら



- ▶ ハードディスクパスワードは、盗難などによる不正使用を防止することを目的とした強固なセキュリティです。ハードディスクパスワードを忘れてしまった場合、修理をしてもハードディスク内のデータやプログラムは復元できず、消失してしまいます。パスワードの管理には充分ご注意ください。

☐ 対処が可能な場合

- ユーザー用パスワードを忘れてしまった
管理者用パスワードを削除すると、ユーザー用パスワードも削除されます。

☐ 対処が不可能な場合

次の場合は、修理が必要です。「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。修理は保証期間にかかわらず、有償になります。

- 管理者用パスワードを忘れてしまった
- ハードディスクパスワードを忘れてしまった

2.3.2 起動デバイスを変更する

本ワークステーションの起動時にOSを読み込むデバイスの順序は、「起動」メニューの「起動デバイスの優先順位」で設定します。

「起動デバイス」に設定されている順にOSを検索します。

変更したデバイスの順序は、再起動後に反映されます。

- 1 「起動」メニューを選択します。
- 2 「起動デバイスの優先順位」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 設定を変更したい順位を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 設定したいデバイスを選択し、【Enter】キーを押します。
選択したデバイスの順位が入れ替わります。
- 5 希望する順番になるまで手順3～4を繰り返します。
- 6 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「2.2.5 BIOSセットアップを終了する」(→P.20)

2.3.3 セキュリティチップの設定を変更する

■ セキュリティチップを有効／無効にする

- 1 「詳細」メニューを選択します。
- 2 「TPM（セキュリティチップ）設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「セキュリティチップ」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 「有効にする」または「無効にする」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 5 「終了」メニューの「変更を保存して終了する（再起動）」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。
- 6 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。
起動時の自己診断が実行された後、セキュリティチップの設定が変更されます。

■ セキュリティチップをクリアする

重要

- ▶ セキュリティチップをクリアすると、セキュリティチップで保護されたデータなどは利用できなくなります。
セキュリティチップをクリアする前に保護を解除してください。

- 1 「詳細」メニューを選択します。
- 2 「TPM（セキュリティチップ）設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「TPM状態の変更内容」を選択し、【Enter】キーを押します。

POINT

- ▶ 「TPM状態の変更内容」を選択するためには、「セキュリティチップ」が「有効にする」に設定されている必要があります。
- 4 「クリアする」を選択し、【Enter】キーを押します。
 - 5 「終了」メニューの「変更を保存して終了する（再起動）」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。
 - 6 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。
起動時の自己診断が実行された後、セキュリティチップの状態が変更されます。

■ ソフトウェアからの変更を反映する

Windows上のソフトウェアを使ってセキュリティチップの状態を変更する場合、本ワークステーションの再起動後に、変更が有効になっていることがあります。
再起動を要求するメッセージが表示されたら、本ワークステーションを再起動してください。起動時の自己診断が実行された後、セキュリティチップの状態が変更されます。

2.3.4 カバー開放検出を有効にする

カバー開放検出を有効にすると、ワークステーションの本体カバーが開いたままになっている場合にエラーを検出し記録します。また有効時は、ワークステーションの電源が入っていない状態でもカバー開放は検出されます。
一度カバー開放が検出されると、カバーを閉じてワークステーションを起動する度にカバー開放のメッセージを表示します。
メッセージを消すには「2.3.5 カバー開放エラーに対処する」（→P.27）をご覧ください。カバー開放エラーを解除してください。

- 1 「セキュリティ」メニューを表示します。
- 2 管理者用パスワードおよび必要に応じてユーザー用パスワードを設定します。
「2.3.1 BIOSのパスワード機能を使う」（→P.22）
- 3 「カバー開放検出」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 「使用する」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 5 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「2.2.5 BIOSセットアップを終了する」（→P.20）

2.3.5 カバー開放エラーに対処する

カバー開放に関するエラーが検出された場合は、次の操作を行いエラーを解除してください。

- 1 本体カバーが取り付けられているか確認します。
- 2 「管理者用パスワード」でBIOSセットアップを起動します。
「2.2.1 BIOSセットアップを起動する」（→P.18）
- 3 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「2.2.5 BIOSセットアップを終了する」（→P.20）

2.3.6 Wakeup on LANを有効にする

WoL機能とは、他のコンピューターから有線LAN経由で本ワークステーションを起動・レジュームする機能です。WoL機能には、電源オフ状態から起動する機能と、省電力状態からレジュームする機能があります。ここでは、電源オフ状態から起動するための設定について説明します。電源を切る方法については、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」―「電源を切る」をご覧ください。

省電力状態からレジュームする機能については、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」―「WoL機能によるレジュームの設定を変更する」をご覧ください。

- 1** 「電源管理」メニューを選択します。
- 2** 「LAN」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3** 「使用する」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4** 「AC通電再開時の動作」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 5** 「使用しない」以外を選択し、【Enter】キーを押します。
- 6** 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「2.2.5 BIOSセットアップを終了する」（→P.20）
Windowsが起動します。Windows 10の場合は、続けて次の操作を行います。
- 7** 「スタート」ボタン→  (設定) → 「システム」の順にクリックします。
- 8** 画面左側のメニューで「電源とスリープ」をクリックします。
- 9** 画面右側の関連設定の「電源の追加設定」をクリックします。
「電源オプション」が表示されます。
- 10** ウィンドウ左の「スリープ解除のパスワード保護」、または「電源ボタンの動作を選択する」をクリックします。
- 11** 「現在利用可能ではない設定を変更します」をクリックします。
- 12** 「シャットダウン設定」の「高速スタートアップを有効にする（推奨）」のチェックを外します。
- 13** 「変更の保存」をクリックします。

2.3.7 Wakeup on RTCを有効にする

Wakeup on RTC機能とは、電源オフ状態から指定の時刻に本ワークステーションを起動する機能です。

- 1** 「電源管理」メニューを選択します。
- 2** 「時刻」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3** 「使用する」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4** 次の設定をそれぞれ選択し、【Enter】キーを押します。
 - ・ 時
 - ・ 分
 - ・ 秒
 - ・ モード
 - ・ 日（「モード」が「毎月」時のみ設定可能）
- 5** 指定する時刻をそれぞれ入力し、【Enter】キーを押します。
- 6** 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「2.2.5 BIOSセットアップを終了する」（→P.20）

2.3.8 イベントログを確認する

- 1** 「イベントログ」メニューを選択します。
- 2** 「イベントログの表示」を選択し、【Enter】キーを押します。
記録されているイベントログが表示されます。

イベントログに記録されるメッセージについては、「3.2.5 エラーメッセージ一覧」（→P.57）の「■BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ」をご覧ください。

2.3.9 イベントログを消去する

- 1 「イベントログ」メニューを選択します。
- 2 「イベントログ設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「イベントログの消去」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 次回起動時に消去する場合は「次回起動時に消去します」を、毎回起動時に消去する場合は「毎回起動時に消去します」をそれぞれ選択し、【Enter】キーを押します。
- 5 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「2.2.5 BIOSセットアップを終了する」（→P.20）

POINT

- ▶ 「イベントログの消去」に「次回起動時に消去します」を選択した場合、再起動すると設定値は「いいえ」になります。

2.3.10 ご購入時の設定に戻す

- 1 「終了」メニューを選択します。
- 2 「標準設定値を読み込む」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。
- 3 「はい」を選択して【Enter】キーを押します。
一部を除くすべての設定が、ご購入時の設定値に戻ります。
変更されない項目については、『BIOSセットアップメニュー一覧』の「終了」メニュー「標準設定値を読み込む」備考欄「次の項目は対象外」をご覧ください。
- 4 Windows 10の場合は、次の設定項目を変更します。
 - ・「ネットワークスタック」：使用する
 - ・「セキュアブート機能」：使用する
- 5 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「2.2.5 BIOSセットアップを終了する」（→P.20）

2.4 ME BIOS Extension

お使いのワークステーションは、インテル® AMT機能などを提供するIntel® ME (Management Engine) BIOS Extensionが搭載されています。ここでは、ME BIOS Extensionの設定を行うMEセットアップについて説明します。

AMT機能などをお使いにならない場合は、初期パスワードのみ変更してください。本ワークステーションご購入時のパスワードのままでいると、第三者にAMT機能などを使用されるおそれがあります。

MEセットアップは、本ワークステーションにおいて動作確認済みの管理ソフトウェアを搭載している場合のみ、管理ソフトウェアのマニュアルに従って設定してください。

重要

- ▶ 修理などによりメインボードを交換された場合は、パスワードを含むMEセットアップの設定値が出荷時の状態に戻る場合があります。その場合は、MEセットアップを設定し直してください。

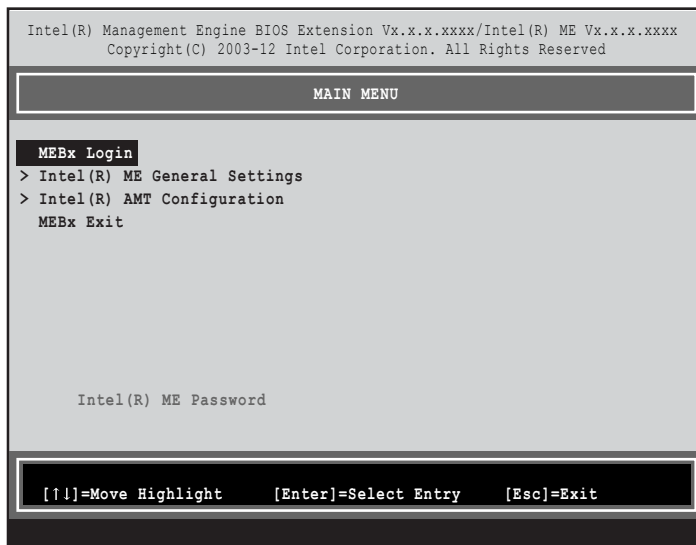
2.4.1 初期パスワードを変更する

パスワードは、必ず変更してください。ご購入時のパスワードのまましていると、第三者にAMT機能などを使用されるおそれがあります。

重要

- ▶ 変更したパスワードを忘れるとMEセットアップの設定が変更できなくなります。その場合、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「AMT設定」の「AMT/ME設定のクリア」を「使用する」に設定することにより、ご購入時の状態に戻してから、パスワードを設定し直してください。

- 1 本ワークステーションの電源を入れる、または再起動します。
- 2 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【Ctrl】 + 【P】 キーを押します。
MEセットアップログイン画面が表示されます。



POINT

- ▶ BIOSセットアップの「詳細」メニューの「AMT設定」の「MEセットアップ」を「Enter MEBx Setup」に変更することにより、次回起動時「Intel(R) Management Engine BIOS Extension」メニューに入ることできます。BIOSセットアップについては、「2.2.1 BIOSセットアップを起動する」（→P.18）をご覧ください。

- 3 「MEBx Login」を選択し、【Enter】キーを押します。
パスワード入力画面が表示されます。



- 4 「admin」と入力し、【Enter】キーを押します。
出荷時のパスワードは「admin」に設定されています。

 POINT

- ▶ 「Invalid Password - Try Again」と表示された場合、入力したパスワードが間違っています。【Enter】キーを押してメッセージを消去し、Caps Lockがオフになっていることを確認して、手順3からやり直してください。
- ▶ パスワードを3回間違えると「Max password attempts exceeded, system will reboot」と表示され、【Enter】キーを押すと本ワークステーションが再起動します。手順2からやり直してください。

- 5 「Intel(R) ME New Password」と表示されたら、新しいパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。

パスワードは、次の条件をすべて満たすもので設定してください。

- ・ 8文字以上32文字以下
- ・ 1文字以上の数字を含む
- ・ 1文字以上の特殊文字（例：@、\$、&）を含む
- ・ 1文字以上の小文字のアルファベットを含む
- ・ 1文字以上の大文字のアルファベットを含む

 POINT

- ▶ 日本語キーボード以外のキーボードを使用する場合、MEセットアップで特殊文字をキーボードの刻印どおりに入力できないことがあります。刻印どおりに入力するには、BIOSセットアップの「メイン」メニューの「キーボードレイアウト」を使用するキーボードに合わせて設定してください。
- ▶ 「:」「,」「"」は使用できません。また、「_」および「 」(スペース)は使用できますが特殊文字の条件を満たしません。

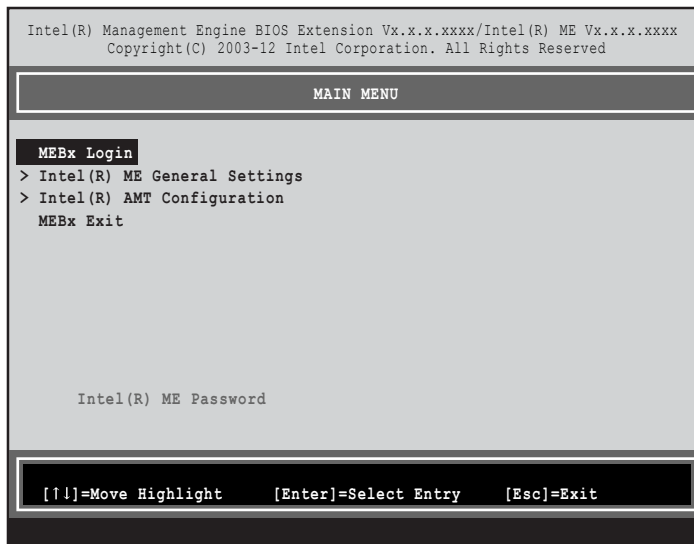
- 6 「Verify password」と表示されたら、手順5で入力したパスワードを再度入力し、【Enter】キーを押します。

 POINT

- ▶ 「Error applying new password」と表示された場合、新しいパスワードが手順5の条件を満たしていません。【Enter】キーを押してエラーメッセージを消去し、文字数と使用している文字を確認して、手順3からやり直してください。
- ▶ 「Password Mismatch - Abort Change」と表示された場合、手順5と手順6で入力したパスワードが一致していません。【Enter】キーを押してエラーメッセージを消去し、Caps Lockがオフになっていることを確認して、手順3からやり直してください。

2.4.2 ME セットアップを起動する

- 1 本ワークステーションの電源を入れる、または再起動します。
- 2 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【Ctrl】 + 【P】 キーを押します。
ME セットアップログイン画面が表示されます。



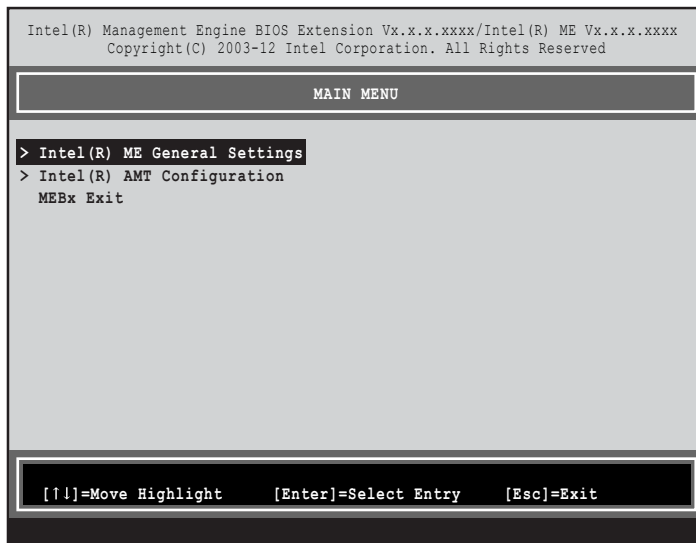
POINT

- ▶ BIOS セットアップの「詳細」メニューの「AMT 設定」の「ME セットアップ」を「Enter MEBx Setup」に変更することにより、次回起動時「Intel(R) Management Engine BIOS Extension」メニューに入ることできます。BIOS セットアップについては、「2.2.1 BIOS セットアップを起動する」（→P.18）をご覧ください。

- 3 「MEBx Login」を選択し、【Enter】キーを押します。
パスワード入力画面が表示されます。



- 4** パスワードを入力し、【Enter】キーを押します。
ME セットアップ画面が表示されます。



 重要

- ▶ ME セットアップを初めて起動したときは、パスワードの変更画面が表示されます。ご購入時のパスワードを変更しないと、ME セットアップは利用できません。パスワードの変更については、「2.4.1 初期パスワードを変更する」（→P.32）をご覧ください。

- 5** 画面上部のメニューから ME BIOS Extension の設定を行います。

2.4.3 ME セットアップを終了する

- 1** 「MAIN MENU」を表示します。
「MAIN MENU」が表示されるまで【Esc】キーを押してください。
- 2** カーソルキーで「MEBx Exit」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3** 「Are you sure you want to exit? (Y/N)」と表示されたら、【Y】キーを押します。
ME セットアップが終了し、OS が起動します。

2.4.4 メニュー詳細

ここでは、ME セットアップの主なメニュー項目について説明します。

■ 「Intel(R) ME General Settings」 メニュー

設定項目	備考
Change ME Password ^注	ME セットアップのパスワードを変更します。 パスワード入力画面でパスワードを入力後、「2.4.1 初期パスワードを変更する」（→P.32）の手順5以降をご覧になり、パスワードを変更してください。

注：パスワードは定期的に変更するなど、第三者に漏れないように充分に注意して管理してください。
本設定の変更後は、Intel AMT WEB-UI ログインパスワードとの連携が取れなくなります。
連携をとるには、「■ 「Intel(R) AMT Configuration」メニュー」の「Unconfigure Network Access」を実行してください。
また、必要に応じて「Network Setup」を設定した後に「Activate Network Access」を実行してください。

■ 「Intel(R) AMT Configuration」 メニュー

設定項目	備考
Manageability Feature Selection	本機能を使用しない場合は「Disabled」に設定します。
Network Setup	MEのネットワーク設定を変更します。お客様の環境にあわせて設定してください。
Activate Network Access ^{注1}	ネットワークアクセスを有効にし、MEのネットワークインターフェースを使用可能にします。
Unconfigure Network Access	
Full Unprovision	ネットワークアクセスを無効にし、すべてのネットワーク設定をご購入時の状態に戻します。
Partial Unprovision	・ ネットワーク設定を残したまま、ネットワークアクセスを無効にします。 ・ ネットワークアクセスが有効になっている場合のみ表示されます。
Power Control ^{注2}	
Intel(R) AMT ON in Host Sleep States ☐ Desktop: ON in S0 ☒ Desktop: ON in S0, ME Wake in S3, S4-5	省電力状態（スリープ、休止状態）や電源オフ状態におけるAMT機能の有効／無効を設定します。 ・ Desktop: ON in S0 本ワークステーションが動作状態のときにのみAMT機能が有効になります。 ・ Desktop: ON in S0, ME Wake in S3, S4-5 本ワークステーションが動作状態、省電力状態および電源オフの状態のときにAMT機能が有効になります。
Idle Timeout ^{注3}	「Intel(R) AMT ON in Host Sleep States」が「Desktop: ON in S0, ME Wake in S3, S4-5」のとき、本ワークステーションが省電力状態または電源オフに移行してからMEへのアクセスがない場合、MEが待機状態になるまでの時間を分単位で設定します。

注1：・「Activate Network Access」を実行しない場合、「Network Setup」で設定した内容は有効になりません。
・「Activate Network Access」を実行した後は、本メニューは表示されなくなります。

注2：「Activate Network Access」を実行した後、本メニュー設定は有効になります。

注3：本設定を変更すると一部の管理ソフトウェアで正常に動作しなくなる場合があります。管理ソフトウェアにて動作が確認できている場合のみ、管理ソフトウェアのマニュアルに従って設定してください。

3

第3章

トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

3.1	トラブル発生時の基本操作	38
3.2	よくあるトラブルと解決方法	43
3.3	それでも解決できないときは	62

3.1 トラブル発生時の基本操作

トラブルを解決するにはいくつかのポイントがあります。トラブル発生時に対応していただきたい順番に記載しています。

3.1.1 状況を確認する

トラブルが発生したときは、直前に行った操作や現在のワークステーションの状況を確認しましょう。

■ メッセージなどが表示されたら控えておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモ帳などに控えておいてください。マニュアルで該当するトラブルを検索する場合や、お問い合わせのときに役立ちます。

■ ワークステーションや周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まずワークステーションや周辺機器の電源が入っているか確認してください。

- 電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか？また緩んだりしていませんか？
- 電源コンセント自体に問題はありませんか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- OAタップを使用している場合、OAタップ自体に問題はありませんか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- 使用する装置の電源はすべて入っていますか？
ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。
- キーボードの上にものを載せていませんか？
キーが押され、ワークステーションが正常に動作しないことがあります。

この他、「3.2.2 起動・終了時のトラブル」（→P.44）の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」もあわせてご覧ください。

3.1.2 以前の状態に戻す

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールの直後にトラブルが発生した場合は、いったん以前の状態に戻してください。

- 周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
- ソフトウェアをインストールした場合は、アンインストールします。

その後、製品に添付されているマニュアル、「Readme.txt」などの補足説明書、インターネット上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください。

発生したトラブルに該当する記述があれば、指示に従ってください。

3.1.3 セーフモードで起動する（Windows 7の場合）

セーフモードで起動できるか確認してください。セーフモードは、Windowsが正常に起動できないとき、必要最低限の機能で起動するモードです。そのためトラブルの原因を突き止めるのに適しています。

起動方法は次のとおりです。



- ▶ セーフモードで起動する場合は、完全に電源を切った状態から操作してください。
電源の切り方は、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」—「電源を切る」をご覧ください。

1 本ワークステーションの電源を入れます。

2 「FUJITSU」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。

「詳細ブートオプション」が表示されます。

【F8】キーは一度押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。

3 「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。

4 管理者アカウントでログオンします。

パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してログオンします。

Windowsがセーフモードで起動し、「Windowsヘルプとサポート」ウィンドウが表示されます。



- ▶ セーフモードでも起動できない場合
手順3で「前回正常起動時の構成（詳細）」を選択して、Windowsを「前回正常起動時の構成」に戻してください。

3.1.4 トラブルシューティングで調べる

「3.2 よくあるトラブルと解決方法」（→P.43）は、よくあるトラブルの解決方法が記載されています。発生したトラブルの解決方法がないかご覧ください。

3.1.5 Windowsのヘルプで調べる

Windowsの機能については、Windowsのヘルプをご覧ください。

3.1.6 インターネットで調べる

よくあるQA一覧ページ（<http://www.fmwORLD.net/biz/fmv/support/qalist/index.html>）では、本ワークステーションで発生したトラブルの解決方法を提供しています。
また、富士通製品情報ページ（http://www.fmwORLD.net/biz/fmv/index_support.html）では、本ワークステーションに関連したサポート情報や更新されたドライバーを提供しています。
注意事項や補足情報も公開していますので、解決方法がないかご覧ください。

3.1.7 診断プログラムを使用する

診断プログラムを使用して、ハードウェアに障害が発生していないか診断してください。
まずBIOSの起動メニューにある診断プログラムで簡単に診断し、異常が発見されなければ続けて「富士通ハードウェア診断ツール」でデバイスを選んで詳しく診断します。
診断後にエラーコードが表示された場合は控えておき、「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。
診断時間は5～10分程度ですが、診断する内容やワークステーションの環境によっては長時間かかる場合があります。

重要

- ▶ 診断プログラムを使用する場合は、完全に電源を切った状態から操作してください。
電源の切り方は、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」－「電源を切る」をご覧ください。
- ▶ BIOSの設定をご購入時の状態に戻してください。
診断プログラムを使用する前に、必ず、BIOSをご購入時の状態に戻してください。詳しくは、「2.3.10 ご購入時の設定に戻す」（→P.30）をご覧ください。
また、CELSIUS Rシリーズで「M.2フラッシュメモリディスク（NVMe）」または「M.2フラッシュメモリディスク（NVMe）＋SATA-RAID1」を搭載している場合は、事前にBIOSの次の設定を変更してください。診断終了後は、設定を元に戻してください。

メニュー	設定項目	設定値
詳細	CPU設定	
	HTテクノロジー	使用しない
	アクティブコア	1

- ▶ 診断プログラムを使用する前に周辺機器を取り外してください。
USBメモリや外付けハードディスクなど、ハードディスクやリムーバブルディスクと認識される周辺機器は、診断を行う前に取り外してください。

- 1 【F12】 キーを押したまま、本ワークステーションの電源を入れます。
- 2 起動メニューが表示されたら、【F12】 キーを離します。

 POINT

- ▶ BIOSセットアップの「起動」メニューの「起動メニュー」が「使用しない」の場合は、起動メニューを使用できません。その場合は、「使用する」に設定し直してください。BIOSセットアップについては、「2.2.1 BIOSセットアップを起動する」（→P.18）をご覧ください。
- ▶ 起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力し、すぐに【F12】 キーを押してください。
- ▶ 起動メニューが表示されずWindowsが起動してしまった場合は、本ワークステーションの電源を完全に切ってからもう一度操作してください。電源の切り方は、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」－「電源を切る」をご覧ください。

- 3 カーソルキーで「診断プログラム」を選択し、【Enter】 キーを押します。
「診断プログラムを実行しますか？」と表示されます。

- 4 【Y】 キーを押します。

ハードウェア診断が始まります。

ハードウェア診断が終了したら、診断結果が表示されます。診断結果が表示される前に、自動的にワークステーションが再起動する場合があります。

- 5 次の操作を行います。

●トラブルが検出されなかった場合

【Enter】 キーを押してください。続けて「富士通ハードウェア診断ツール」が起動します。

「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウと「注意事項」ウィンドウが表示されます。手順6へ進んでください。

●トラブルが検出された場合

手順6以降の「富士通ハードウェア診断ツール」での診断は不要です。画面に表示された内容を控え、お問い合わせのときにお伝えください。その後、【Y】 キーを押してワークステーションの電源を切ってください。

電源が自動で切れない場合は、電源ボタンを押して電源を切ってください。

- 6 「注意事項」ウィンドウの内容を確認し、「OK」をクリックします。

- 7 診断したいアイコンにチェックが付いていることを確認し、「実行」をクリックします。

ハードウェア診断が始まります。

 POINT

- ▶ 「[ハードウェア名] に[媒体] をセットしてください」などと表示された場合、「リカバリデータディスク」や「トラブル解決ナビディスク」など、『リカバリガイド』に従って作成したディスクをセットしてください。音楽CDなどでは診断できない場合があります。診断を取りやめる場合は、「スキップ」をクリックしてください。

- 8 「診断結果」ウィンドウに表示された内容を確認します。

表示された内容に従って操作してください。エラーコードが表示された場合には控え、お問い合わせのときにお伝えください。

- 9** 「診断結果」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。
「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウに戻ります。
- 10** 「終了」をクリックします。
「終了」ウィンドウが表示されます。
- 11** 「はい」をクリックします。
 - Windows 10の場合
電源が切れ、診断プログラムが終了します。
 - Windows 7の場合
「トラブル解決ナビ」ウィンドウが表示されます。手順12へ進んでください。
- 12** 「トラブル解決ナビ」ウィンドウで「終了」をクリックし、終了を確認する画面で「OK」をクリックします。
ワークステーションが再起動します。

3.1.8 サポートの窓口相談する

本章をご覧になり、トラブル解決のための対処をした後も回復しない場合には、「3.3 それでも解決できないときは」（→P.62）をご覧になりサポートの窓口相談してください。

3.2 よくあるトラブルと解決方法

3.2.1 トラブル一覧

■ 起動・終了時のトラブル

- 「電源が入らない」 (→P.44)
- 「ビープ音が鳴った」 (→P.45)
- 「メッセージが表示された」 (→P.45)
- 「画面に何も表示されない」 (→P.46)
- 「Windowsが起動しない」 (→P.46)
- 「Windowsが動かなくなってしまう、電源が切れない」 (→P.47)

■ Windows・ソフトウェア関連のトラブル

- 「ソフトウェアが動かなくなってしまった」 (→P.47)
- 「頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる」 (→P.47)
- 「Windowsやソフトウェアの動作が遅くなった」 (→P.48)
- 「[デバイス マネージャー] に [不明なデバイス] がある」 (→P.48)

■ ハードウェア関連のトラブル

☐ BIOS

- 「BIOSで設定したパスワードを忘れてしまった」 (→P.49)

☐ メモリ

- 「仮想メモリが足りない」 (→P.49)

☐ LAN

- 「ネットワークに接続できない」 (→P.50)
- 「通信速度が遅い」 (→P.51)

☐ ハードディスク

- 「ハードディスクからカリカリ音がする」 (→P.51)
- 「Windowsからハードディスクが認識できない」 (→P.51)

☐ フラッシュメモリディスク

- 「フラッシュメモリディスクのパフォーマンスが低下した」 (→P.52)

☐ M.2フラッシュメモリディスク (NVMe)

- 「市販のバックアップツールでバックアップできない」 (→P.52)

☐ デバイス

- 「機器が使用できない」 (→P.52)

☐ CD/DVD

- 「ディスクからデータの読み出しができない」 (→P.52)
- 「ディスクが取り出せない」 (→P.53)

☐ ディスプレイ

- 「画面に何も表示されない」 (→P.53)
- 「表示が乱れる」 (→P.53)

☐ サウンド

- 「スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる」 (→P.54)
- 「マイクからうまく録音ができない」 (→P.54)

☐ キーボード

- 「キーボードが動作しない」 (→P.55)

☐ ポインティングデバイス

- 「マウスポインターが動かない、正しく動作しない」 (→P.55)

☐ USB

- 「USBデバイスが使えない」 (→P.55)
- 「USBデバイスが使えず、「デバイス マネージャー」で確認すると「!」が表示される」 (→P.55)

☐ FAN

- 「FANが回転しない」 (→P.56)

☐ その他

- 「「ジー」「キーン」という音がする」 (→P.56)

3.2.2 起動・終了時のトラブル



電源が入らない

- 電源ケーブルは接続されていますか？
- ワークステーション本体背面のメインスイッチはオンになっていますか？（メインスイッチ搭載機種）
- 電源スイッチのある0Aタップをお使いの場合、0Aタップの電源は入っていますか？
- 電源ボタンを4秒以上押して電源を切り、電源ケーブルを抜いてください。30秒以上待ってから再度電源ケーブルを接続し、電源を入れてください。



ビープ音が鳴った

- 電源を入れた後の自己診断（POST）時に、ビープ音が鳴る場合があります。
ビープ音によるエラー通知は、「ピーッ」「ピッ」「ピッピッ」「ピッピッピッ」のように、1回または連続したビープ音の組み合わせにより行われます。
ビープ音が鳴る原因と対処方法は、次のとおりです。
 - ・メモリのテストエラー
メモリの初期化（認識）に失敗しています。メモリが搭載されていないか、本ワークステーションでサポートしていないメモリを取り付けている可能性があります。
メモリテストエラーの場合、画面には何も表示されません。
メモリが正しく取り付けられているか確認してください。
 - ・ビデオコントローラ（グラフィックスカード）のエラー
ビデオコントローラ（グラフィックスカード）が搭載されていないか、またはビデオコントローラの初期化（認識）に失敗しています。ビデオコントローラが正しく取り付けられているか確認してください。
 - ・ディスプレイケーブルのエラー
ディスプレイケーブルが接続されていない場合にビープ音が鳴ります。
ディスプレイケーブルが正しく接続されているか確認してください。上記のことを確認してもビープ音が鳴る場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。市販のメモリを増設している場合は、製造元・販売元に確認してください。



メッセージが表示された

- 電源を入れた後の自己診断（POST）時に、画面にメッセージが表示される場合があります。「3.2.5 エラーメッセージ一覧」（→P.57）の「■ 起動時に表示されるエラーメッセージ」で該当するメッセージを確認し、記載されている処置に従ってください。
一部のメッセージはBIOSイベントログに記録され、BIOSセットアップから確認できます。「3.2.5 エラーメッセージ一覧」（→P.57）の「■ BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ」をご覧ください。
- 周辺機器の取り付けを確認してください。
拡張カードなどを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているか確認してください。また、カードの割り込み要求など正しく設定されているかも確認してください。このとき、拡張カードやユーティリティソフトのマニュアルがある場合は、それらもあわせてご覧ください。
- 「PLEASE POWER DOWN AND CONNECT THE PCIe POWER CABLE(S) FOR THIS GRAPHICS CARD」と表示されて、Windowsが起動しない場合があります。
グラフィックスカードの補助電源ケーブルが正しく取り付けられているか確認してください。

上記の処置をしてもまだエラーメッセージが発生する場合は、本ワークステーションが故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。



画面に何も表示されない

- 電源ランプが点灯していますか？
電源ボタンを押して動作状態にしてください。それでも、画面が表示されない場合は「電源が入らない」（→P.44）をご覧ください。
- ディスプレイに関して、次の項目を確認してください。
 - ・ ディスプレイケーブルのコネクタのピンが破損していませんか？
 - ・ ディスプレイのブライトネス／コントラストボリュームは、正しく調節されていますか？
 - ・ デジタルディスプレイや複数台のディスプレイを接続している場合、ワークステーション本体の電源を入れる前に、ディスプレイの電源を入れていますか？
必ずワークステーション本体の電源を入れる前にディスプレイの電源を入れてください。ワークステーション本体の電源を入れた後にディスプレイの電源を入れたら、画面が表示されないことがあります。そのような場合は、いったん電源を切ってから入れ直してください。
- 2台目のディスプレイを使用している場合、次の項目を確認してください。
 - ・ 2台目のディスプレイ出力に設定されていませんか？
2台目のディスプレイだけに表示する設定になっていると、1台目のディスプレイには表示されません。
『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」－「マルチディスプレイ機能」をご覧ください。なり、設定を1台目のディスプレイ表示に切り替えてください。
 - ・ 解像度やリフレッシュレートは、2台目のディスプレイにあった設定になっていますか？
そのまま15秒程度待っても1台目のディスプレイが表示されない場合は、本ワークステーションを強制終了してください。その後、2台目のディスプレイのケーブルを外してから電源を入れたら、1台目のディスプレイに表示されます。
『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」－「マルチディスプレイ機能」をご覧ください。なり、お使いになる2台目のディスプレイに合わせた設定値に変更してください。その後、2台目のディスプレイの表示に切り替えてください。



Windowsが起動しない

- Windows 起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示された場合は、Windowsが起動するまでそのままお待ちください。
Windowsを正常に終了できなかった場合、次回起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示され、Windowsの修復が行われることがあります。修復後は自動的に再起動されます。
- OSを変更しましたか？
OSを変更した場合、BIOSの設定も変更する必要があります。BIOSの設定については、『リカバリガイド』をご覧ください。



Windowsが動かなくなってしまう、電源が切れない

- 次の手順でWindowsを終了させてください。
 1. 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】 キーを押し、画面右下の「シャットダウン」アイコンをクリックします。

この操作で強制終了できないときは、電源ボタンを4秒以上押して電源を切り、いったん電源ケーブルを抜いてください。30秒以上待ってから再度電源ケーブルを接続し、電源を入れてください。

重要

- ▶ 光ディスクアクセスランプが点灯中に電源を切ると、ハードディスクが壊れる可能性があります。
- ▶ 強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ 強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします。

3.2.3 Windows・ソフトウェア関連のトラブル

ここでは、Windows、ソフトウェアに関連するトラブルを説明しています。トラブルにあわせてご覧ください。



ソフトウェアが動かなくなってしまった

- 「タスクマネージャー」から、動かなくなったソフトウェアを強制終了してください。

POINT

- ▶ ソフトウェアを強制終了した場合、ソフトウェアでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ ソフトウェアを強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします。



頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる

- 次の項目を確認してください。
 - ・ ウイルス対策ソフトウェアでハードディスクをスキャンする
定期的にハードディスクをスキャンすることをお勧めします。
 - ・ Cドライブの空き容量が充分か確認する
Windowsのシステムファイルが格納されているCドライブの空き容量が少ないと、Windowsの動作が不安定になることがあります。
Cドライブの空き容量が少ない場合は、空き容量を増やしてください。空き容量を増やすには次の方法があります。
 - ・ ごみ箱を空にする
 - ・ 不要なファイルやソフトウェアを削除する
 - ・ ディスクのクリーンアップを行う

- ・ハードディスクのエラーチェックを行う
- それでもトラブルが頻繁に発生する場合は、リカバリを実行してください。詳しくは『リカバリガイド』をご覧ください。



Windowsやソフトウェアの動作が遅くなった

- 通風孔などにほこりが付着し、ワークステーションの内部が高温になっている可能性があります。
 - ・『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」―「電源を切る」をご覧ください。ワークステーションのお手入れをしてください。
 - ・再起動してください。問題が解決する場合があります。

対 象 SATA-RAID1 搭載機種

- リビルド中は十分なI/O処理性能が得られないため、ディスクアレイの状態によってシステムのパフォーマンス速度が低下します。
『SATA-RAIDをお使いの方へ』をご覧ください。



「デバイス マネージャー」に「不明なデバイス」がある

- 「FUJ0420 デバイスドライバー」および「FUJ02E3 デバイスドライバー」がインストールされていない可能性があります。
「デバイス マネージャー」の「システムデバイス」に「Fujitsu FUJ0420 Device」および「Fujitsu FUJ02E3 Device Driver」が表示されているかを確認してください。
表示されていない場合は、次の手順で「FUJ0420 デバイスドライバー」および「FUJ02E3 デバイスドライバー」をインストールしてください。
 1. 「ドライバーズディスク」をセットします。
「ドライバーズディスク検索」が起動します。
 2. 「機種名」にお使いの機種を、「OS」にお使いのOSを設定します。
 3. 「種別」に「必須」を設定します。
 4. 「ソフトウェア」から「FUJ0420 デバイスドライバー」および「FUJ02E3 デバイスドライバー」を選択します。
 5. 「インストール方法の確認」をクリックします。

詳しくは、「ドライバーズディスク」に格納されている「readme.jp-JP.txt」をご覧ください。

POINT

- ▶ ハードディスクに格納されているデータからドライバーをインストールすることもできます。インストール方法は、「1.2.1 「ドライバーズディスク検索」からのインストール」（→P.12）をご覧ください。

3.2.4 ハードウェア関連のトラブル

■ BIOS



BIOSで設定したパスワードを忘れてしまった

- 管理者用パスワードを忘れると、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。ハードディスクパスワードを忘れると、ハードディスクが使えなくなったり、ハードディスクのセキュリティ機能を解除できなくなったりします。いずれの場合も修理が必要となります。ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。詳しくは、「**■** パスワードを忘れてしまったら」（→P.25）をご覧ください。

■ メモリ



仮想メモリが足りない

- 仮想メモリ（ページングファイル）を設定してください。仮想メモリの設定を行うには、仮想メモリの「最大サイズ」分の空き容量がハードディスクに必要です。ただし、ブートパーティション以外に設定する場合、あるいはページングファイルサイズが小さい場合などは、メモリダンプをファイルに出力できなくなります。ダンプファイルを取得するには、システムドライブに最低でも物理メモリ + 1MB（仮想メモリの容量は含まず）の空き容量が必要です。

POINT

- ▶ 搭載メモリサイズによっては、推奨サイズを設定できない場合があります。その場合は、ページングファイルを保存するドライブを変更してください。
- ▶ 仮想メモリを小さい値に設定した場合、性能に影響があります。最良のシステム効率を得るには、「初期サイズ」に、「すべてのドライブの総ページング ファイル サイズ」の「推奨」に表示されている数値以上の値を設定してください。システムの搭載メモリ総量の1.5倍の値に設定することをお勧めします。ただし、メモリを大量に消費するソフトウェアを定期的に使用する場合は、必要に応じてサイズを大きい値に設定してください。

仮想メモリのサイズは次の手順で変更します。

1. 次の操作を行います。

● Windows 10の場合

1. 「スタート」ボタン → (設定) → 「システム」の順にクリックします。
2. 画面左側のメニューで「バージョン情報」をクリックします。
3. 画面右側の関連設定の「システム情報」をクリックします。

● Windows 7の場合

1. 「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.6）を表示します。
2. 「システムとセキュリティ」→「システム」の順にクリックします。「システム」が表示されます。

2. ウィンドウ左の「システムの詳細設定」をクリックします。
3. 「パフォーマンス」の「設定」をクリックします。
4. 「詳細設定」タブをクリックし、「仮想メモリ」の「変更」をクリックします。
 1. 「すべてのドライブのページングファイルのサイズを自動的に管理する」のチェックを外します。
 2. ページングファイルを保存するドライブを変更する場合は、「ドライブ」で保存するドライブをクリックします。
システムドライブに十分な空き容量がある場合は、ドライブの変更は必要ありません。
 3. 「カスタムサイズ」にチェックを付け、「初期サイズ」および「最大サイズ」を入力し、「設定」をクリックします。
「初期サイズ」には「すべてのドライブの総ページングファイルサイズ」に表示されている「推奨」の値より大きい値を設定してください。また、「最大サイズ」には「初期サイズ」に設定した値より大きい値を設定してください。
5. 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。
6. 再起動のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って本ワークステーションを再起動します。

■ LAN



ネットワークに接続できない

- ネットワークケーブルは正しく接続されていますか？
- ネットワークケーブルに関して、次の項目を確認してください。
 - ・ ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
 - ・ 使用するネットワーク環境に合ったケーブルを使っていますか？
- CELSIUS RシリーズでネットワークブートやWake up on LAN機能が動作しない場合は、次の操作を行ってください。
 1. 本ワークステーションの電源を切り、ACケーブルを抜きます。
 2. ネットワーク機器の電源が入っていることを確認し、LANケーブルを本ワークステーションへ接続します。
 3. ACケーブルを接続し、ワークステーション本体の電源を入れます。

ネットワークの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。



通信速度が遅い

- ネットワーク機器の電源を入れてから本ワークステーションの電源を入れてください。また、本ワークステーションの使用中にLANケーブルを抜いたり、ネットワーク機器の電源をオフにしたりしないでください。

ネットワーク機器との接続ができなくなったり、通信速度が極端に低下したりする場合があります。

例：1000Mbpsで通信していたのに10Mbpsの速度になる

ネットワーク機器との接続ができない場合は、ネットワーク機器の電源が入っていること、およびLANケーブルで本ワークステーションとネットワーク機器が接続されていることを確認後、ワークステーション本体を再起動してください。

- 節電機能が働いていませんか？（インテルLANデバイス搭載機種）

節電機能に対応したLANデバイスを搭載している機種の場合、Windowsの省電力機能によってディスプレイの電源が切れると、通信速度が下がります。

これにより問題がある場合は、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」－「有線LAN」をご覧ください、この機能を無効に設定してください。

■ ハードディスク



ハードディスクからカリカリ音がする

- 次のような場合に、ハードディスクからカリカリという音がすることがあります。
 - ・ Windowsを終了した直後
 - ・ 省電力状態（スリープ、休止状態）にした直後
 - ・ ワークステーションの操作を一時中断した場合（ハードディスクアクセスが数秒間なかった場合）
 - ・ 中断した状態から再度ワークステーションを操作した場合
 - ・ ワークステーションを操作しない場合でも、常駐しているソフトウェアなどが動作した場合（ハードディスクアクセスされた場合）

これらはハードディスクの特性です。故障ではありませんので、そのままお使いください。



Windowsからハードディスクが認識できない

- ハードディスクがフォーマットされていない可能性があります。

ハードディスクをフォーマットしてください。

また次の場合もハードディスクはフォーマットされていません。

- ・ 別売のハードディスクを取り付けた場合
- ・ ハードディスクを修理交換した場合

フォーマット手順については、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」－「ハードディスクをフォーマットする」または「3章 周辺機器」－「ハードディスクを取り付ける」の「■ハードディスクをフォーマットする」をご覧ください。

■ フラッシュメモリディスク



フラッシュメモリディスクのパフォーマンスが低下した

- リカバリを実行すると、改善できる場合があります。
「ハードディスクデータ消去」を実行した後に、リカバリを実行してください。
フラッシュメモリディスク内のデータの消去手順については、「ハードディスクデータ消去」（→P.65）をご覧ください。
リカバリ方法については、『リカバリガイド』をご覧ください。

■ M.2フラッシュメモリディスク（NVMe）



市販のバックアップツールでバックアップできない

- お使いのバックアップツールが、M.2フラッシュメモリディスク（NVMe）に対応しているか確認してください。
NVMeに非対応のバックアップツールの場合は、M.2フラッシュメモリディスク（NVMe）のバックアップはできません。
また、SATAハードディスクとM.2フラッシュメモリディスク（NVMe）の両方を搭載している場合は、SATAハードディスクから順に認識します。市販のバックアップツールをお使いになる場合は、バックアップするディスク元を指定できるツールをご使用ください。

■ デバイス



機器が使用できない

- 「Portshutter Premium」のポート設定は、有効になっていますか？
次の機器を搭載した機種では、情報漏えいや不正プログラムの導入を防ぐために、「Portshutter Premium」を使用して接続ポートを無効に設定している場合があります。
システム管理者に確認してください。
 - ・ USB（内蔵 USB デバイスを含む）
 - ・ CD/DVD

■ CD/DVD



ディスクからデータの読み出しができない

- ディスクが正しくセットされていますか？
ディスクの表裏を間違えないよう、正しくセットしてください。詳しくは、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」―「ディスクをセットする」をご覧ください。
- ディスクが汚れていたり、水滴が付いたりしていませんか？
汚れたり水滴が付いたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。

- ディスクが傷付いていたり、極端に反っていたりしませんか？
ディスクを交換してください。
- 規格外のディスクを使用していませんか？
規格にあったディスクをお使いください。詳しくは、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」―「使用できるディスク」をご覧ください。



ディスクが取り出せない

- ワークステーション本体は動作状態になっていますか？
本ワークステーションの光学ドライブは電子ロックのため、ワークステーション本体が動作状態の場合のみディスクのセット／取り出しが可能です。

なお、なんらかの原因でトレーが出ない場合は、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」―「ディスクを取り出す」をご覧ください。

■ ディスプレイ



画面に何も表示されない

- 「3.2.2 起動・終了時のトラブル」（→P.44）の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」をご覧ください。
- 省電力状態になっていませんか？
本ワークステーションには省電力機能が設定されており、一定時間入力がないと省電力状態に移行します。
詳しくは『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」―「省電力」をご覧ください。



表示が乱れる

- 解像度、発色数、リフレッシュレートが正しく設定されていますか？
『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」―「解像度を変更する」をご覧ください。
外部ディスプレイの場合は、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- ソフトウェアを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウを再表示してください。
 1. ソフトウェアを最小化します。
 2. 最小化したソフトウェアを元のサイズに戻します。

POINT

- ▶ 次のような場合に表示が乱れることがありますが、動作上は問題ありません。
 - ・ Windows起動時および画面の切り替え時
 - ・ DirectXを使用した一部のソフトウェア使用時
- 近くにテレビなどの強い磁界が発生するものはありませんか？
強い磁界が発生するものは、ディスプレイやワークステーション本体から離して置いてください。

- ドライバーが正しくインストールされていますか？
「1.2 インストール」（→P.12）をご覧ください。ディスプレイドライバーを再インストールしてください。
Windows 7の場合、Windowsが起動しないときは、セーフモードで起動してからインストールしてください（→P.39）。
- お使いになるディスプレイや、解像度の設定によっては、CAD系ソフトウェアなどで縦線と横線の太さが異なって見えることがあります。この場合、解像度を下げる、またはリフレッシュレートを下げることで改善する場合があります。
- Dual Link対応ディスプレイをお使いの場合は、必ずディスプレイ付属のケーブル（Dual Link対応）をお使いください。

■ サウンド



スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

- 内蔵スピーカーに関して、次の項目を確認してください。
 - ・ スピーカーの出力はONになっていますか？
スピーカーの出力を確認してください。
 - ・ ヘッドホン端子（CELSIUS Rシリーズ）、マイク・ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子（CELSIUS Mシリーズ）にヘッドホン（または他のデバイス）が接続されていませんか？
- 外付けスピーカーに関して、次の項目を確認してください。
 - ・ ワークステーション本体と正しく接続されていますか？
 - ・ スピーカーの電源ケーブルは接続されていますか？
 - ・ スピーカーの電源ボタンは入っていますか？
 - ・ 音量ボリュームは正しく調節されていますか？
 - ・ ヘッドホン端子（CELSIUS Rシリーズ）、マイク・ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子（CELSIUS Mシリーズ）にヘッドホン（または他のデバイス）が接続されていませんか？
- ミュートや音量などを確認してください。
詳しくは、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」—「サウンド」をご覧ください。
- 音が割れる場合は、音量を小さくしてください。
- サウンドドライバーが正しくインストールされていますか？
必要に応じて、「1.2 インストール」（→P.12）をご覧ください。再インストールしてください。



マイクからうまく録音ができない

- 音量は調節されていますか？
音量を設定するウィンドウで録音の項目を有効にし、音量を調節してください。詳しくは、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」—「サウンド」をご覧ください。
- 録音を行いたいマイク端子が有効になっていますか？（CELSIUS Rシリーズの場合）
マイク端子が複数ある場合、後から接続したマイク端子が有効になります。両方にマイクを接続した状態で電源を入れたら、前面のマイク端子が有効になります。
また、音声を録音する機器が複数使用可能な場合、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」—「既存のオーディオ機器を選択する」をご覧ください。録音を行いたいマイク端子を既定のオーディオ機器に設定してください。

■ キーボード



キーボードが動作しない

- キーボードは正しく接続されていますか？
 - ・ 電源を切らずにキーボードのUSBコネクタを一度抜き、接続し直してください。

■ ポインティングデバイス



マウスポインターが動かない、正しく動作しない

- マウスは正しく接続されていますか？
 - ・ 電源を切らずにマウスのUSBコネクタを一度抜き、接続し直してください。
- オプティカルセンサー部分が汚れていませんか？
 - ・ オプティカルセンサー部分をクリーニングしてください。
- 次のようなものの上で操作していませんか？
 - ・ 鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・ 光沢のあるもの
 - ・ 濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
 - ・ 網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの

■ USB



USBデバイスが使えない

- ケーブルは正しく接続されていますか？
- USBデバイスがUSBハブを経由して接続されていませんか？
USBハブを経由すると問題が発生する場合があります。USBデバイスを本体のUSBコネクタに直接接続してみてください。
- USBデバイスに不具合はありませんか？
USBデバイスに不具合がある場合、Windowsが正常に動作しなくなることがあります。ワークステーションを再起動して、USBデバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、USBデバイスのご購入元にご連絡ください。
- 「Portshutter Premium」のUSB設定は、有効になっていますか？（→P.52）
- USB3.0コネクタにUSB3.0に対応していないUSBデバイスを接続していませんか？
USB3.0コネクタにはUSB3.0に対応したUSBデバイスの接続をお勧めします。



USBデバイスが使えず、「デバイス マネージャー」で確認すると「！」が表示される

- デバイスドライバーに問題はありませんか？インストールされていますか？
必要なドライバーをインストールしてください。
- 「Portshutter Premium」のUSB設定は、有効になっていますか？（→P.52）

■ FAN



FANが回転しない

- 室温が低い場合など装置内部の温度が低い時は、稼働中でもファンの回転を停止することがあります。故障ではありませんので、そのままお使いください。FANエラーとして記録されません。

■ その他



「ジー」「キーン」という音がする

- 静かな場所では、「ジー」、「キーン」というワークステーション本体内部の電子回路の動作音が聞こえる場合があります。
故障ではありませんので、そのままお使いください。

3.2.5 エラーメッセージ一覧

ここでは、本ワークステーションが表示するメッセージと、その対処方法を説明しています。
エラーメッセージ一覧には、お使いのワークステーションに搭載されているハードウェアによつては、表示されないメッセージも含まれています。
本書に記載されていないエラーメッセージが表示された場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

■ 起動時に表示されるエラーメッセージ

起動時の自己診断（POST）で異常がみつかった場合に表示されるメッセージは、次のとおりです。



- ▶ エラーメッセージが表示された場合は、対処を行った後にBIOSセットアップを起動し、「終了」メニューの「変更を保存して終了する（再起動）」または「変更を保存して終了する（電源OFF）」を実行してください。

BIOSセットアップメニューについては、『BIOSセットアップメニュー 一覧』をご覧ください。

メッセージ	解説
B	
Bad RTC Battery 内蔵リチウム電池の電圧低下	内蔵リチウム電池が取り外されました。
BIOS Settings defaults loaded. BIOS設定が標準設定値へ読み込まれました。	すべてのBIOS設定項目が標準設定値に変更されました。BIOSセットアップの各設定を確認し、正しい値に設定し直してください。 起動するたびに本エラーメッセージが表示される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
BOOT: Couldn't find NTLDR Please insert another disk	フロッピーディスクドライブにシステム以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
F	
FAN fault: n FAN absent: n FANエラー: n FAN未接続: n	FAN動作確認時にファンでエラーが発生しました。 接続されているファンが壊れていないか、ファンの電源ケーブルが正しく接続されているかを確認してください。また、ファンの回転部分にケーブルや異物がはさまっていないか確認してください。 確認後、BIOSセットアップを起動し、「終了」メニューの「変更を保存して終了する（再起動）」または「変更を保存して終了する（電源OFF）」を実行してください。 それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
H	
Housing opened. カバー開放を検出しました。	本体カバーが取り外されました。また、カバー開放検出機能を初めて「使用する」に設定した場合、本メッセージが表示される場合があります。 電源を切って、本体カバーが取り付けられていることを確認後、「管理者用パスワード」でBIOSセットアップを起動し、「終了」メニューの「変更を保存して終了する（再起動）」を実行してください。 それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
Housing switch missing. カバー開放検出スイッチが接続されていません。	本体カバー開放検出スイッチが接続されていません。 電源を切って、本体カバー開放検出スイッチケーブルが正しく接続されているか確認後、BIOSセットアップを起動し、「終了」メニューの「変更を保存して終了する（再起動）」を実行してください。 それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

メッセージ	解説
I	
Invalid date / time	日付／時刻がリセットされました。
日付と時刻の設定を確認してください。	BIOSセットアップを起動して、正しい日付／時刻を設定してください。
Invalid Password	誤ったパスワードが入力されました。
パスワードが正しくありません	
K	
Keyboard/Interface Error.	キーボードテストでエラーが発生しました。電源を切って、キーボードが正しく接続されているか確認し、30秒以上待ってから電源を入れ直してください。
キーボードエラーまたはキーボードが接続されていません。	また、キーボードを接続せずにお使いになる場合は、エラーが表示されないようにBIOSセットアップの「起動」メニューの「キーボードエラー検出」を「使用しない」に設定してください。
N	
Non - System disk or disk error Replace and press any key to ready	フロッピーディスクドライブにシステム以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
NTLDR is missing Press any key to restart	フロッピーディスクドライブにシステム以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
P	
PLEASE POWER DOWN AND CONNECT THE PCIe POWER CABLE(S) FOR THIS GRAPHICS CARD	グラフィックスカードの補助電源ケーブルが正しく取り付けられていません。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
Press <F2> to enter setup or any other key to continue.	POST中にエラーが発生するとOSを起動する前に本メッセージが表示されます。
<ESC>キーまたは<F2>キーを押すと BIOSセットアップを起動します。その 他のキーを押すと続きます。	【F2】キーを押すとBIOSセットアップを起動して設定を変更できます。他のキーを押すとOSの起動を開始します。
PXE-T01:File not found	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「互換性サポートモジュール設定」→「ネットワークからの起動」を「使用しない」に設定してください。
PXE-E32:TFTP open timeout	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「互換性サポートモジュール設定」→「ネットワークからの起動」を「使用しない」に設定してください。
PXE-E51: No DHCP or proxyDHCP offers were received	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「互換性サポートモジュール設定」→「ネットワークからの起動」を「使用しない」に設定してください。
PXE-E53:No boot filename received	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「互換性サポートモジュール設定」→「ネットワークからの起動」を「使用しない」に設定してください。
PXE-E61:Media test failure, Check cable	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。LANケーブルが正しく接続されていません。LANケーブルを正しく接続してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
PXE-E78:Could not locate boot server	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「互換性サポートモジュール設定」→「ネットワークからの起動」を「使用しない」に設定してください。

メッセージ	解説
PXE-E89:Could not download boot image	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップの「詳細」メニューの「互換性サポートモジュール設定」→「ネットワークからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
S	
System Disabled. システムは使用できません。	誤ったパスワードが3回入力されました。

■ BIOS イベントログに記録されるエラーメッセージ

起動時の自己診断（POST）で、一部のエラーはBIOS イベントログに記録されます。

BIOS イベントログは、BIOS セットアップの「イベントログメニュー」の「イベントログの表示」から確認できます。

BIOS セットアップメニューについては、『BIOS セットアップメニュー 一覧』をご覧ください。

BIOS イベントログに記録されるエラーメッセージは、次のとおりです。

メッセージ	解説
B	
Bad RTC Battery ERROR CODE:FJ 0006800B	内蔵リチウム電池が取り外されました。
内蔵リチウム電池の電圧低下 ERROR CODE:FJ 0006800B	
BIOS password wrong ERROR CODE:EFI 03051001	間違ったBIOSパスワードが3回入力されたため、起動を中断しました。
パスワード入力不正 ERROR CODE:EFI 03051001	
BIOS Settings defaults loaded. ERROR CODE:FJ 0005F013	すべてのBIOS設定項目が標準設定値に変更されました。BIOSセットアップの各設定を確認し、正しい値に設定し直してください。 起動するたびに本エラーメッセージが記録される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
BIOS設定が標準設定値へ読み込まれました。 ERROR CODE:FJ 0005F013	
D	
Diagnostic Program found error (Code=xxxxxxx) ERROR CODE:Smbios 0x87	診断プログラムがエラーを検出しました。 診断コードを記録し、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
診断プログラムが異常を検出 (詳細コード= xxxxxxxx) ERROR CODE:Smbios 0x87	
DIMM-nn Memory: Uncorrectable error(ECC) ERROR CODE:FJ 00190003	メモリスロットDIMM nnで訂正不可能なエラーが発生しました。 電源を切って、メモリが正しく取り付けられているか確認してください。 それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
DIMM-nn で訂正不可能なECCエラー が発生しました ERROR CODE:FJ 00190003	
F	
n: Fan failed. n: Fan absent. ERROR CODE:FJ 00040004	FAN動作確認時にファンでエラーが発生しました。 接続されているファンが壊れていないこと、ファンの電源ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。また、ファンの回転部分にケーブルや異物がはさまっていないか確認してください。 確認後、BIOSセットアップを起動し、「終了」メニューの「変更を保存して終了する（再起動）」または「変更を保存して終了する（電源OFF）」を実行してください。 それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
n: ファンエラー n: ファン未接続 ERROR CODE:FJ 00040004	

メッセージ	解説
H	
HDD password is invalid ERROR CODE:EFI 03051004	間違ったHDDパスワードが3回入力されたため、起動を中断しました。
パスワード入力不正 ERROR CODE:EFI 03051004	
Housing opened. ERROR CODE:EFI 00340002	本体カバーが取り外されました。電源を切って、本体カバーが取り付けられていることを確認後、「管理者用パスワード」でBIOSセットアップを起動し、「終了」メニューの「変更を保存して終了する（再起動）」を実行してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
カバー開放を検出しました。 ERROR CODE:EFI 00340002	
Housing sensor absent. ERROR CODE:EFI 00340022	本体カバー開放検出スイッチが接続されていません。電源を切って、本体カバー開放検出スイッチケーブルが正しく接続されているか確認後、BIOSセットアップを起動し、「終了」メニューの「変更を保存して終了する（再起動）」を実行してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
カバー開放検出スイッチが接続されていません。 ERROR CODE:EFI 00340022	
I	
Invalid date/time. ERROR CODE:FJ 00090071	日付、時刻が正しく設定されていません。「システム日付」および「システム時刻」の設定を確認してください。
日付と時刻が正しくありません。 ERROR CODE:FJ 00090071	
K	
Keyboard error. ERROR CODE:FJ 00090011	キーボードテストでエラーが発生しました。キーが押されたままになっていないか、またはキーボードが正しく接続されているか確認してください。また、キーボードを接続せずにお使いになる場合は、エラーが表示されないようにBIOSセットアップの「起動」メニューの「キーボードエラー検出」を「使用しない」に設定してください。
キーボードエラー ERROR CODE:FJ 00090011	
L	
Log Area Reset ERROR CODE:FJ 002E0001	BIOSイベントログがクリアされました。
イベントログがクリアされました。	
M	
Memory size changed ERROR CODE:FJ 00130062	メモリ容量が変更されました。
メモリ容量が変更されました。 ERROR CODE:FJ 00130062	
T	
Temperature critical at sensor Sensor n ERROR CODE:FJ 00050000	搭載されている温度センサーで温度異常を検出しました。電源を切って、ワークステーション本体内部にほこりがたまっていないか確認してください。また、ファンが壊れていないことまたはファンのケーブルが正しく接続されていることを確認してください。確認後、BIOSセットアップを起動し、「終了」メニューの「変更を保存して終了する（再起動）」または「変更を保存して終了する（電源OFF）」を実行してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
温度エラー Sensor n ERROR CODE:FJ 00050000	

3.3 それでも解決できないときは

3.3.1 お問い合わせ先

■ 弊社へのお問い合わせ

故障かなと思われたときや、技術的なご質問・ご相談などについては、『取扱説明書』をご覧ください。になり、弊社までお問い合わせください。

■ ソフトウェアに関するお問い合わせ

本ワークステーションに添付されている、次のソフトウェアの内容については、各連絡先にお問い合わせください。

電話番号などが変更されている場合は、『取扱説明書』をご覧ください。「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。

● マカフィー リブセーフ

マカフィー株式会社

URL： <http://www.mcafee.com/japan/home/support/>

(1) テクニカルサポートセンター

インストール方法、製品削除など技術に関するお問い合わせ窓口

電話：0570-060-033（携帯電話からの場合：03-5428-2279）

受付時間：9:00～21:00（年中無休）

お問い合わせ： <http://www.mcafee.com/japan/home/support/tsquery/>

(2) カスタマーサービスセンター

ご契約の更新、ご契約期間の確認など、ご契約に関するお問い合わせ窓口

電話：0570-030-088（携帯電話からの場合：03-5428-1792）

受付時間：9:00～18:00（土・日・祝祭日を除く）

お問い合わせ： <http://www.mcafee.com/japan/home/support/csquery/>

60日間の試用期間中、サポートいたします。

● i-フィルター

デジタルアーツ株式会社

サポートセンター

電話：0570-00-1334

受付時間：10:00～18:00（指定休業日を除く）

URL： <http://www.daj.jp/faq/>

お問い合わせフォーム： <http://www.daj.jp/ask/>

30日間の試用期間中、サポートいたします。

● Adobe Acrobat Reader DC

ソフトウェア提供会社より無償で提供されている製品のため、ユーザーサポートはございません。ご了承ください。

廃棄・リサイクル

■ 本製品の廃棄について

- ハードディスクのデータを消去していますか？
ワークステーション本体に搭載されているハードディスクには、お客様の重要なデータ（作成したファイルや送受信したメールなど）が記録されています。ワークステーションを廃棄するときは、ハードディスク内のデータを完全に消去することをお勧めします。ハードディスク内のデータ消去については、「付録1 ワークステーション本体の廃棄・譲渡時の注意」（→P.64）をご覧ください。
- メインボード上に装着されている電池は取り外さずに、ワークステーション本体と一緒に廃棄してください。
- 本製品（付属品を含む）を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。
 - ・ 法人、企業のお客様へ
本製品の廃棄については、弊社ホームページ「ICT製品の処分・リサイクル方法」（<http://www.fujitsu.com/jp/about/environment/society/recycleinfo/>）をご覧ください。
 - ・ 個人のお客様へ
本製品を廃棄する場合は、一般廃棄物の扱いとなりますので、地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従ってください。

付録1 ワークステーション本体の廃棄・譲渡時の注意

ここでは、ワークステーションを廃棄・譲渡するときにデータが流出するのを防ぐための対策について説明しています。

ワークステーションの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関する注意

ワークステーションは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのワークステーションの中のハードディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。

したがって、そのワークステーションを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータを消去することが必要です。

ところが、このハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。

「データを消去する」という場合、一般に

- ① データを「ごみ箱」に捨てる
- ② 「削除」操作を行う
- ③ 「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ④ ソフトで初期化（フォーマット）する
- ⑤ リカバリし、ご購入時の状態に戻す

などの作業を行うと思います。

まず、「ごみ箱」にデータを捨てても、OSのもとでファイルを復元することができてしまいます。さらに②～⑤の操作をしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっているだけの場合があります。

つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このワークステーションのハードディスク内の重要なデータが読み取られ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

ワークステーションユーザーが、廃棄・譲渡等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、ユーザーの責任において消去することが非常に重要です。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有償）を利用するか、ハードディスク上のデータを物理的・磁氣的に破壊して、読めなくすることを推奨します。

なお、ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくワークステーションを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますため、十分な確認を行う必要があります。

ハードディスクデータ消去

本ワークステーションには、専用ソフトウェア「ハードディスクデータ消去」が添付されています。「ハードディスクデータ消去」は、WindowsなどのOSによるファイル削除やフォーマットと違い、ハードディスクの全領域に固定パターンを上書きするため、データが復元されにくくなります。

ただし、特殊な設備や特殊なソフトウェアの使用によりデータを復元される可能性はあります。あらかじめご了承ください。

■ 注意事項

- ワークステーション本体にUSB メモリ、メモリーカード、外付けハードディスクなど周辺機器を接続している場合は、「ハードディスクデータ消去」を実行する前に必ず取り外してください。
- データ消去を実行するとハードディスクに格納されているデータ（リカバリデータなど）も消去されます。
必要があれば「ハードディスクデータ消去」の前にリカバリデータディスクを作成してください。作成方法は『リカバリガイド』をご覧ください。
- Windows 7の場合は、「トラブル解決ナビディスク」を起動してから、72時間経過すると、本ワークステーションが自動的に再起動されます。そのため、「トラブル解決ナビディスク」を起動してから長時間放置した場合は、再起動してから「ハードディスクデータ消去」を実行してください。
- 必要なデータはバックアップしてください。
- データ消去中に電源を切らないでください。ハードディスクが故障する可能性があります。
- Windows 7の場合は、データ消去中に「トラブル解決ナビディスク」を取り出さないでください。処理を継続できなくなる場合があります。
- Windows 7で光学ドライブが搭載されていない機種をお使いの場合は、別売の外付け光学ドライブを接続してください。外付け光学ドライブは、添付のACアダプタを接続した状態で使用します。
外付け光学ドライブについては、富士通製品情報ページ内の「システム構成図」（<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>）をご覧ください。

■ データ消去方法

□ Windows 10の場合

- 1 【F12】 キーを押したまま、本ワークステーションの電源を入れます。
- 2 起動メニューが表示されたら、【F12】 キーを離します。

POINT

- ▶ BIOSセットアップの「起動」メニューの「起動メニュー」が「使用しない」の場合は、起動メニューを使用できません。その場合は、「使用する」に設定し直してください。BIOSセットアップについては、「2.2.1 BIOSセットアップを起動する」（→P.18）をご覧ください。
- ▶ 起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力し、すぐに【F12】 キーを押してください。
- ▶ 起動メニューが表示されずWindowsが起動してしまった場合は、本ワークステーションの電源を完全に切ってからもう一度操作してください。電源の切り方は、『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」－「電源を切る」をご覧ください。

- 3 カーソルキーで「診断プログラム」を選択し、【Enter】 キーを押します。
「診断プログラムを実行しますか？」と表示されます。

- 4 【Y】 キーを押します。

ハードウェア診断が始まります。

ハードウェア診断が終了したら、診断結果が表示されます。診断結果が表示される前に、自動的にワークステーションが再起動する場合があります。

- 5 次の操作を行います。

●トラブルが検出されなかった場合

【Enter】 キーを押してください。続けて「富士通ハードウェア診断ツール」が起動します。

「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウと「注意事項」ウィンドウが表示されます。手順6へ進んでください。

●トラブルが検出された場合

手順6以降の「富士通ハードウェア診断ツール」での診断は不要です。画面に表示された内容を控え、お問い合わせのときにお伝えください。その後、【Y】 キーを押してワークステーションの電源を切ってください。

電源が自動で切れない場合は、電源ボタンを押して電源を切ってください。

- 6 「注意事項」ウィンドウの内容を確認し、「OK」をクリックします。
- 7 「ツール」タブをクリックします。

8 「データ消去」にチェックを付け「実行」をクリックします。

表示された画面に従って操作してください。

データの消去には数時間かかります。完了すると「消去が完了しました。」と表示されます。

** 重要**

- ▶ フラッシュメモリディスク搭載機種の場合、ディスクのデータを消去する方式は、必ず「SSD対応（フラッシュメモリディスク用）」を選択してください。それ以外の方式を選択すると、完全にデータを消去することができませんのでご注意ください。

9 「終了」をクリックします。

ワークステーション本体の電源が切れます。

** 重要**

- ▶ 電源が自動で切れない場合は、電源ボタンを4秒以上押して、電源を切ってください。

□ Windows 7の場合** 重要**

- ▶ CELSIUS Rシリーズで「M.2フラッシュメモリディスク（NVMe）」または「M.2 フラッシュメモリディスク（NVMe）+ SATA-RAID1」を搭載している場合
事前にBIOSの次の設定を変更してください。データ消去後は、設定を元に戻してください。

メニュー	設定項目	設定値
詳細	CPU 設定	
	HTテクノロジー	使用しない
	アクティブコア	1

「トラブル解決ナビディスク」を用意してください。

1 「トラブル解決ナビディスク」をセットします。**2 『製品ガイド（機種別編）』の「2章 取り扱い」―「電源を切る」をご覧になり、ワークステーション本体の電源を切ります。****3 「2.2.6 起動メニューを使用する」（→P.21）をご覧になり、光学ドライブから起動します。**

「トラブル解決ナビ」ウィンドウが表示されます。

4 「ユーティリティ」タブをクリックし、「ハードディスクデータ消去」を選択し、「実行」をクリックします。

「ハードディスクデータ消去」ウィンドウが表示されます。

5 画面の指示に従って「ハードディスクデータ消去」を実行します。

表示された画面に従って操作してください。

データの消去には数時間かかります。完了すると「消去が完了しました。」と表示されます。

 重要

フラッシュメモリディスク搭載機種の場合、ディスクのデータを消去する方式は、必ず「SSD対応（フラッシュメモリディスク用）」を選択してください。それ以外の方式を選択すると、完全にデータを消去することができませんのでご注意ください。

6 「トラブル解決ナビディスク」を取り出します。

7 電源ボタンを4秒以上押して、電源を切ります。

付録2 Windowsの新規インストールについて

Windowsを新規にインストールするときに気を付けていただきたいことについて説明します。

重要

- ▶ 新規にインストールできるOSは、サポートOSのみとなりますのでご注意ください。
お使いの機種のサポートOSについては、『製品ガイド（機種別編）』の「5章 仕様」－「本体仕様」をご覧ください。

注意事項

- Windowsを新規にインストールすると、ハードディスクのすべてのデータが削除されます。
必要に応じて事前にバックアップしてください。
- Windowsをインストールすることにより、今までお使いになっていた機能が使えなくなることがあります。
- 次のドライバーをインストールするときには、USB 接続のストレージ（パスワードロックのないもの、仮想ドライブのような特殊なフォーマットをしていないもの）が必要です。あらかじめご用意ください。（SATA-RAID1搭載機種を除く）
・ インテル®ラピッドストレージテクノロジー・エンタープライズ（以降「IRSTeドライバー」と表記）
- ご購入後に増設・接続された周辺機器は、必ず取り外してください（カスタムメイドオプションを除く）。OSの新規インストールが完了してから、1つずつ取り付けてください。
- 「ドライバズディスク」の「種別」－「必須」に表示されるドライバーはすべてインストールしてください。また、ご購入時に選択したカスタムメイドに合わせたドライバーも必ずインストールしてください。インストールしなかった場合、ワークステーションが正常に動作しません。
- 最新版のドライバーやユーティリティは、富士通製品情報ページ（http://www.fmwORLD.net/biz/fmv/index_support.html）にて提供されている場合があります。システムの安定稼働のため、常に最新版のドライバーやユーティリティを適用することをお勧めします。
- 光学ドライブが搭載されていない場合は、別売の外付け光学ドライブを接続してください。

■ Windows 10を新規インストールする場合の注意

- Windows 10を新規にインストールする場合には、初期セットアップ後にスタートメニューやWindows ユニバーサル アプリが開けなくなる問題に対処する次の修正プログラムをインストールする必要があります。

なお、問題が発生してWindowsの操作ができなくなった場合は、再度Windows 10を新規インストールしてから、修正プログラムをインストールしてください。

修正プログラム：KB3194798、または以降の累積的な修正プログラム

- ・ Windows 10 更新履歴
<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/12387/windows-10-update-history>
- ・ ダウンロードURL
<http://catalog.update.microsoft.com/v7/site/Search.aspx?q=KB3194798>
(なお、このURLは変更されることがあります)
- ・ インストール方法
 1. 管理者アカウントでサインインします。
 2. ダウンロードしたファイルを格納したフォルダーを開きます。
 3. ダウンロードしたファイルをダブルクリックします。修正プログラムが実行されます。
この後は、表示された画面に従って操作してください。

■ Windows 7を新規インストールする場合の注意

- Windows 7の新規インストール時に、修正プログラム（セキュリティチップドライバー）をインストールする必要があります。
新規インストール手順内にある修正プログラム「KB2920188」のインストールは、必ず行ってください。
- Windows 7を新規インストールする場合は、あらかじめUSB3.0ドライバーおよびM.2フラッシュメモリディスク（NVMe）の修正プログラムがプレインストールされたインストールディスクを作成する必要があります。
このディスクを使用しないと、Windows 7の新規インストール中にUSBデバイスおよびM.2フラッシュメモリディスク（NVMe）が動作せず、インストールを続行することができません。
ディスクの作成については、富士通製品情報ページ（http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html）内にある「OS関連情報」－「Windows 7情報」の次のページをご覧ください。
- ・ Windows 7を新規インストールする手順（CELSIUS M770／R970）

新規インストールの準備

■ BIOSの設定をご購入時の状態に戻す（→P.30）

■ セキュリティチップをクリアする（→P.26）

■ ハードディスクデータを消去する（→P.65）

■ Windowsをインストールする前にBIOSセットアップの設定を変更する

次の表をご覧になり、新規にインストールするOSの欄のとおり設定を変更します。
BIOSセットアップについては、「2.2.1 BIOSセットアップを起動する」（→P.18）をご覧ください。



- ▶ 新規にインストールできるOSは、サポートOSのみとなりますのでご注意ください。
お使いの機種のサポートOSについては、『製品ガイド（機種別編）』の「5章 仕様」－「本体仕様」をご覧ください。

メニュー	設定項目	新規にインストールするOSの設定値	
		Windows 10	Windows 7
詳細	TPM（セキュリティチップ）設定		
	セキュリティチップ	有効にする	有効にする
	ネットワークスタック		
	ネットワークスタック	使用する	使用しない
セキュリティ	セキュアブート設定		
	セキュアブート機能	使用する	使用しない

□ Windows 7を新規インストールする場合

次の条件のときは、あわせて表のとおりメニュー項目を変更してください。変更していない場合は、新規インストールをすることができません。

◇CELSIUS Rシリーズ

- ・「M.2フラッシュメモリディスク（NVMe）」搭載機種
- ・「M.2フラッシュメモリディスク（NVMe）＋SATA-RAID1」搭載機種

メニュー	設定項目	設定値
詳細	ドライブ設定	
	SATAコントローラ設定	
	SATAコントローラ	使用しない
	sSATAコントローラ設定	
	sSATAコントローラ	使用する ^注
	CPU設定	
	HTテクノロジー	使用しない
	アクティブコア	1

注：この設定は変更しないでください。



- ▶ 新規インストール後は、変更した設定を元に戻してください。

◇CELSIUS Mシリーズ

・「M.2フラッシュメモリディスク（NVMe）+ SATA-RAID1」搭載機種

メニュー	設定項目	設定値
詳細	ドライブ設定	
	M.2 SATA Port 0	
	Port 0	使用しない
	SATA Port 1	
	Port 1	使用しない
	SATA Port 2	
	Port 2	使用する ^注
	SATA Port 3	
	Port 3	使用しない
	SATA Port 4	
	Port 4	使用しない
	SATA Port 5	
	Port 5	使用しない
	SATA Port 6	
	Port 6	使用しない
	SATA Port 7	
	Port 7	使用しない

注：この設定は変更しないでください。



▶ 新規インストール後は、変更した設定を元に戻してください。

■ ディスクおよびUSB接続のストレージを用意する

- 正規のWindows 10またはWindows 7のインストールディスク
- ドライバーズディスク
- 「IRSTeドライバー」を格納したUSB接続のストレージ（SATA-RAID1搭載機種を除く）
Windowsをインストールする前に、ドライバーズディスクに格納されている「IRSTeドライバー」をフォルダごとUSB接続のストレージにコピーしておく必要があります。
詳しい手順については、「IRSTeドライバー」のReadme（readme.txt）をご覧ください。

新規インストール手順

SATA-RAID1搭載機種は、「☐ SATA-RAID1搭載機種の場合」（→P.76）をご覧ください。

☐ SATAハードディスク／フラッシュメモリディスク搭載機種の場合

1 「IRSTeドライバー」を格納したUSBストレージをUSB2.0コネクタに接続します。

2 Windowsのインストールディスクを起動します。

1. 【F12】キーを押したまま、本ワークステーションの電源を入れます。
2. 起動メニューが表示されたら、【F12】キーを離します。
3. インストールディスクをセットします。

Windows 10をインストールする場合は次の手順4へ、Windows 7をインストールする場合は、手順5へ進んでください。

4. 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】キーを押して、続けて【F12】キーを押したままにします。

本ワークステーションが再起動します。

5. 起動メニューが表示されたら、【F12】キーを離します。

6. 光学ドライブを選択して【Enter】キーを押します。

・ Windows 10および、Windows 7でセキュリティチップを使用する場合
「UEFI：[光学ドライブ名]」を選択してください。

・ Windows 7でセキュリティチップを使用しない場合
「[光学ドライブ名]」を選択してください。

「Press any key to boot from CD or DVD…」と表示された場合は、何かキーを押してください。

3 Windowsのインストールとセットアップを行います。

1. Windowsのインストール場所を選択する画面が表示されるまで、画面の指示に従って操作します。

途中、「インストールの種類を選んでください」という画面が表示された場合は、「カスタム：Windowsのみをインストールする」（Windows 10の場合）または「新規インストール（カスタム）」（Windows 7の場合）をクリックしてください。

2. 画面左下にある「ドライバーの読み込み」をクリックします。

3. 「参照」をクリックします。

「このPCのハードウェアと互換性がないドライバーを表示しない」にチェックが付いていることを確認してください。

4. ドライバーをコピーしたフォルダーを選択し、「OK」をクリックします。

5. 次のドライバーを選択し、「次へ」をクリックします。

・ Intel® C600+/C220+ series chipset SATA AHCI Controller
「IRSTeドライバー」がインストールされます。

6. Windowsのインストール場所を選択する画面に戻り、画面下のメニュー（Windows 10の場合）または画面右下の「ドライブオプション」（Windows 7の場合）をクリックし、ハードディスクの区画設定、フォーマットを行います。

7. Windowsのインストール場所を選択する画面に戻り、「プライマリ」と書かれたパーティションを選択します。

Windowsのインストールが始まります。

4 Service Packをインストールします（Windows 7の場合）。

5 ドライバーおよびユーティリティをインストールします。

1. 「ドライバーズディスク」をセットします。
「ドライバーズディスク検索（DRVCDSRC.exe）」が起動します。
自動的に起動しない場合は、「DRVCDSRC.exe」を実行してください。
2. 「種別」から「必須」を選択します。
3. 表示されたドライバーを、チップセット デバイス ソフトウェアから順にすべてインストールします。
すでにインストールした「IRSTeドライバー」は除いてください。
4. 「種別」から「任意」または「すべて」を選択し、ご購入時に選択したカスタムメイドにあわせて必要なドライバーをインストールします。

POINT

- ▶ インターネットに接続すると、自動的にインストールされるドライバーおよびユーティリティがあります。

6 CELSIUS Mシリーズの場合は、LANデバイスの設定を変更します（カスタムメイドでLANポートを追加した場合のみ）。

カスタムメイドのLANデバイス（Broadcom Gigabit Integrated Controller）は、Wake up on LAN機能をサポートしていません。

このLANデバイスは、ドライバーインストール後にWake up on LAN機能が「有効」に設定されます。次の手順でWake up on LAN機能を「無効」に変更してください。

1. 「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.6）を表示します。
2. 「システムとセキュリティ」→「システム」の順にクリックします。
3. 画面左側のメニューで「デバイス マネージャー」をクリックします。
「デバイス マネージャー」が表示されます。
4. 「ネットワークアダプター」→「Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet」の順にダブルクリックします。
5. 「電源の管理」タブをクリックします。
6. 次の項目のチェックを外します。
・「このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」
7. 「OK」をクリックし、ウィンドウを閉じます。

7 修正プログラムのインストール（Windows 7の場合のみ）

次の修正プログラムをMicrosoft社のWebサイトからダウンロードして、必ずインストールしてください。

重要

- ▶ 修正プログラムをインストールするためには、Windows 7 Service Pack 1（SP1）がインストールされている必要があります。

・修正プログラム：KB2551127

修正される現象：「ハイブリッド グラフィックスは、異機種混在のGPU構成での使用は、そのWindows 7またはWindows Server 2008 R2を実行しているコンピューターで"0x0000010E"stopエラーが発生します。」

本ワークステーションは異機種混在のGPU構成ではありませんが、本修正プログラムをインストールしていないと類似の問題が発生することがあります。

ダウンロードURL：<http://support.microsoft.com/kb/2551127/ja>
（なお、このURLは変更されることがあります）

8 修正プログラムのインストール（Windows 7の場合のみ）

次の修正プログラムをMicrosoft社のWebサイトからダウンロードして、必ずインストールしてください。

重要

- ▶ 修正プログラムをインストールするためには、Windows 7 Service Pack 1（SP1）がインストールされている必要があります。

・修正プログラム：KB2920188

ダウンロードURL：<https://support.microsoft.com/ja-jp/kb/2920188>
（なお、このURLは変更されることがあります）

●インストール方法

1. 管理者アカウントでログオンします。
2. ダウンロードしたファイルを格納したフォルダーを開きます。
3. ダウンロードしたファイルをダブルクリックします。
実行ファイルが解凍されます。
4. 解凍された修正プログラムを実行します。
この後は、表示された画面に従って操作してください。

9 すべてのドライバーおよびユーティリティをインストールした後は、Windows Updateを実行しWindowsを最新の状態に更新してください。 詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

□ SATA-RAID1 搭載機種の場合

1 Windowsのインストールディスクを起動します。

1. 【F12】キーを押しながら、本ワークステーションの電源を入れます。
2. 起動メニューが表示されたら、【F12】キーを離します。
3. インストールディスクをセットします。

Windows 10をインストールする場合は次の手順4へ、Windows 7をインストールする場合は、手順5へ進んでください。

4. 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】キーを押して、続けて【F12】キーを押したままにします。
本ワークステーションが再起動します。
5. 起動メニューが表示されたら【F12】キーを離します。
6. 光学ドライブを選択して【Enter】キーを押します。

・ Windows 10および、Windows 7でセキュリティチップを使用する場合

「UEFI：[光学ドライブ名]」を選択してください。

・ Windows 7でセキュリティチップを使用しない場合

「[光学ドライブ名]」を選択してください。

「Press any key to boot from CD or DVD…」と表示された場合は、何かキーを押してください。

2 OSのインストールとセットアップを行います。

1. Windowsのインストール場所を選択する画面が表示されるまで、画面の指示に従って操作します。
途中、「インストールの種類を選んでください」という画面が表示された場合は、「カスタム：Windowsのみをインストールする」（Windows 10の場合）または「新規インストール（カスタム）」（Windows 7の場合）をクリックしてください。
2. Windowsのインストール場所を選択する画面に戻り、画面下のメニュー（Windows 10の場合）または画面右下の「ドライブオプション」（Windows 7の場合）をクリックし、ハードディスクの区画設定、フォーマットを行います。
3. Windowsのインストール場所を選択する画面に戻り、「プライマリ」と書かれたパーティションを選択します。
Windowsのインストールが始まります。

3 Service Packをインストールします（Windows 7の場合）。

4 ドライバーおよびユーティリティをインストールします。

1. 「ドライバーズディスク」をセットします。
「ドライバーズディスク検索（DRVCDSRC.exe）」が起動します。
自動的に起動しない場合は、「DRVCDSRC.exe」を実行してください。
2. 「種別」から「必須」を選択します。

3. 表示されたドライバーを、上から順にすべてインストールします。

重要

- ▶ 「IRSTeドライバー」のインストールは、readme.txt内に記載されている「更新インストール手順」に従ってください。
 - ▶ 「IRSTeドライバー」は、ドライバースディスクの次のフォルダに格納されています。
 - ・ Windows 10の場合
[光学ドライブ名:]¥Top_Common¥Chipset¥IntelSATA¥Win10¥64bit
 - ・ Windows 7の場合
[光学ドライブ名:]¥Top_Common¥Chipset¥IntelSATA¥Win7¥64bit
4. 「種別」から「任意」または「すべて」を選択し、ご購入時に選択したカスタムメイドにあわせて必要なドライバーをインストールします。

POINT

- ▶ インターネットに接続すると、自動的にインストールされるドライバーおよびユーティリティがあります。

5 CELSIUS Mシリーズの場合は、LANデバイスの設定を変更します（カスタムメイドでLANポートを追加した場合のみ）。

カスタムメイドのLANデバイス（Broadcom Gigabit Integrated Controller）は、Wakeup on LAN機能をサポートしていません。

このLANデバイスは、ドライバーインストール後にWakeup on LAN機能が「有効」に設定されます。次の手順でWakeup on LAN機能を「無効」に変更してください。

1. 「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.6）を表示します。
2. 「システムとセキュリティ」→「システム」の順にクリックします。
3. 画面左側のメニューで「デバイス マネージャー」をクリックします。
「デバイス マネージャー」が表示されます。
4. 「ネットワークアダプター」→「Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet」の順にダブルクリックします。
5. 「電源の管理」タブをクリックします。
6. 次の項目のチェックを外します。
・「このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」
7. 「OK」をクリックし、ウィンドウを閉じます。

6 ディスクキャッシュの設定を変更します。

1. 「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.6）を表示します。
2. 「システムとセキュリティ」→「システム」の順にクリックします。
3. 画面左側のメニューで「デバイス マネージャー」をクリックします。
「デバイス マネージャー」が表示されます。
4. 「ディスクドライブ」→「Newtech NRCP-KT622A-F1」の順にダブルクリックします。
Newtech NRCP-KT622A-F1のプロパティが表示されます。
5. 「ポリシー」タブで次のチェックを付けます。
・「デバイスの書き込みキャッシュを有効にする」
6. 「OK」をクリックし、ウィンドウを閉じます。

7 修正プログラムのインストール（CELSIUS MシリーズでWindows 7の場合のみ）

次の修正プログラムをMicrosoft社のWebサイトからダウンロードして、必ずインストールしてください。

重要

- ▶ 修正プログラムをインストールするためには、Windows 7 Service Pack 1（SP1）がインストールされている必要があります。
- ・ 修正プログラム：KB2551127
修正される現象：「ハイブリッド グラフィックスは、異機種混在のGPU構成での使用は、そのWindows 7またはWindows Server 2008 R2を実行しているコンピューターで"0x0000010E"stopエラーが発生します。」

本ワークステーションは異機種混在のGPU構成ではありませんが、本修正プログラムをインストールしていないと類似の問題が発生することがあります。

ダウンロードURL：<http://support.microsoft.com/kb/2551127/ja>
（なお、このURLは変更されることがあります）

8 修正プログラムのインストール（Windows 7の場合のみ）

次の修正プログラムをMicrosoft社のWebサイトからダウンロードして、必ずインストールしてください。

重要

- ▶ 修正プログラムをインストールするためには、Windows 7 Service Pack 1（SP1）がインストールされている必要があります。
- ・ 修正プログラム：KB2920188

ダウンロードURL：<https://support.microsoft.com/ja-jp/kb/2920188>
（なお、このURLは変更されることがあります）

●インストール方法

1. 管理者アカウントでログオンします。
2. ダウンロードしたファイルを格納したフォルダーを開きます。
3. ダウンロードしたファイルをダブルクリックします。
実行ファイルが解凍されます。
4. 解凍された修正プログラムを実行します。
この後は、表示された画面に従って操作してください。

- 9 すべてのドライバおよびユーティリティをインストールした後は、Windows Updateを実行しWindowsを最新の状態に更新してください。
詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

CELSIUS

製品ガイド（共通編）
B5FK-9721-01 Z0-01

発行日 2017年12月
発行責任 富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。